

DRAG-ON DRAGOON™

ドラッグ オン ドラグーン

PlayStation2

プレイステーション2用ソフト「ドラッグオンドラグーン」［シナリオ 録音台本］



ENIX cavia

プレイステーション2用ソフト

『ドラッグオンドラグーン』

［シナリオ　録音台本］

【01　初陣】

01—01　MV

城・最上階の一室

SE：遠くの水漏れが聞こえてくることで、静寂をあらわす。

光といえば、人間がくぐりぬけられないほど小さな窓から一筋
入ってくるだけ。埃の舞う、暗くひんやりした部屋。

カイムの城。

本来ならば召使いの下っ端か罪人でも暮らしていそうな部屋。
家具は小さなテーブルとイスのみ。ベッドはない。
テーブルには聖書のような分厚い教典が乗っている。
暗がりのなか、微動だしない人影がある。背中を向けた女の影。
フリアエが窓に向かって、頭を垂れているのだ。（祈り）

SE：静寂を切り裂くような、はばたき音。

窓のふちに飛んできた鳥（ハト）がとまる。
フリアエは顔を上げ、閉じていた瞳をひらく。
眉を動かさず遠くを見つめたまま、無表情。

フリアエ
（絶望を秘めて）
来ます。

SE：鳥のはばたき音。

鳥が飛び立つ。
鳥の羽根が窓の外にひらひらと落ちる。天使の羽根のごとく。

01−03　MV　丘陵下

SE：軍隊の怒号。剣の音。肉がつぶれる音。

上空から見える丘陵。

勾配はなだらか。緑の草がはげ、ところどころに土が見えている。
途中、たくさんの人間が戦っている。
カイムがも帝国軍兵士と戦闘中。
実力は五分五分。必死に戦い、ついに相手を転がした。
瀕死の帝国軍兵士が震える手を挙げておびえる。（赤い眼がのぞく）
カイムは容赦なく瀕死の兵士にとどめを刺す。
カイムは城の最上階（フリアエがいる場所）を振り仰ぐ。

カイム
（無事を祈る）
フリアエ……。

そんなカイムの前を複数の帝国軍兵士がふさぐ。

カイム
（獰猛な咆吼）
いりゃあああああ！

カイムはひるまず、敵に斬りかかっていく。

01―04　GG　砦周辺（地上）

（ミッション01―04）
・城の砦付近で敵兵と戦闘。
肉弾戦。剣の使い方や動かし方などを学ぶレッスン代わり。

01―05　MV　砦

SE：（OFF）怒号、剣の音

城の中庭に瀕死のレッドドラゴンが捕らえられている。
カイムが敵から逃れて現れる。（※今までの戦闘の激しさを物語るように、カイムの顔や首に擦り傷。剣は敵の血でべったり汚れている）

カイム　ドラゴン……

カイム（嫌な記憶蘇る）　うぅ……

カイムの頭によみがえる、肉親の死んだ姿。
（※両親はドラゴンに殺された。そのドラゴンの目は赤い）

カイム　うー……

カイムは憎しみでゆっくり剣をふりかぶる。
と、死んだと思っていたドラゴンが目をひらき、ゆったり首をもたげる。

ドラゴン　『殺すがよい……。』

カイムはすこし驚き、あらためてドラゴンを睨みつける。

ドラゴン　『ただ……』
『我の命は奪えても魂までは汚せぬぞ。』

カイム（気が変わる）　……おまえに生きる意志はまだあるのか？

ドラゴン（意外）　『何？』

カイム　他の道はない。
契約だ！

ドラゴン（バカにして）　『ふん！　おぬしにそれほどの資格があるのか？』

カイム　資格などない！
ただ俺は生きたいだけだ！

カイムとドラゴンのにらみ合い。
ちょっと動いただけで、ドラゴンは血と体液がぼたぼた垂れる。

カイム　憎むなら憎め！

SE：帝国軍複数の足音、鎧の音。

カイム
（魂の叫び）　それでも俺は生きてやる!!

ドラゴン　『……』

カイム
（鬼気迫って）

答えろ！

契約か？　死か⁉

01—06　GG

砦内部（地上）

（ミッション01—06）

・砦内部で騎士団と戦闘。

隠れる場所があり、そこへ隠れたりすることで敵をまとめて倒せたりする。

狭いので、自分が追いつめられる危険性もある。

それ以外では、ふつうの肉弾戦。

01—08　MV

砦

帝国軍の死体が転がるなか、カイムはドラゴンと向き合う。

カイムは重症。ドラゴンも同じく。一刻の猶予もない。

カイム（瀕死）　……さぁ……
　　　　　　　　答えろ……。

ドラゴン（瀕死）　『契約か？　……死か？』
　　　　　　　　『……おぬしの生きる意志に誓おう。』

カイム　……では？

ドラゴン　『いいだろう……』
　　　　　『契約だ！』

カイムは自分の胸に手をあてる。

カイム（気合い）　フンッ！

カイムは手を心霊治療のごとく身体にめりこませ、
血を一滴も流さないまま、虹色に輝く玉（心臓）を取り出す。

カイム（苦悶）　ウ……クッ……グゥウーー

ドラゴンの玉は口に出てくる。
カイムが進み出て、玉を交差（交換）し、ふたたび
身体にしまわれる……。
以上で契約成立。ドラゴンスフィア誕生。

契約終了後、体は傷も癒えてピンピンしている。
ドラゴンが武者震いと共に、天に向かってちから強く咆吼する。
カイムがその背に飛び乗ると、大空に飛び立っていく。

SE：ドラゴンのはばたき音

【02　分かち合う魂】

02―01　GA	砦上部～城壁周辺（上空）

（ミッション02―01）

・帝国軍空中兵器・砦上部の砲台を破壊

はじめてドラゴンにのっての空中戦。
操縦に慣れるための練習戦。
ドラゴン有利で戦闘をすすめられる。（ドラゴンの強大さを実感）
「砲台」というターゲットを狙うことを学習。

・砦内部の攻城砲を破壊（元02―02ミッション）

少し、操縦が難しくなる。（内部は狭いので、ぶつからないように）
弓隊の頭上すれすれを飛んだりして……。
攻城砲以外の設備を壊すと、壁が崩れるなど味方にダメージ。
また、敵と味方を区別して攻撃しないと、味方が減ってしまう。
味方が減ると、敵の攻撃が自分に集中してしまう。

（会話が可能ならば）

※ここで、ドラゴンと文字通り一心同体の関係になったことを
　提示できないか？

※03−01の会話をココと02−02で引き取りたいです。

・カイムが死ぬと、ドラゴンも死ぬ。逆もまたアリ。

【03　女神救出】

03−01　GA	砦・内部（上空）
03−02　GG	城壁周辺（低空）

03−01　GA　砦・内部（上空）

（ミッション03−01）

・城壁外周の砲台を破壊

01，02は、砦内部の傭兵や塹壕周辺の砲台を破壊するクエスト。
砲台は上空からでないと狙撃できず、傭兵は低空から狙い打ちする。
使い分けて、効率よく撃ち落としていく。

03−02　GG　城壁周辺（低空）

（ミッション03−02）

城壁外周の敵を一掃

クリア条件は砦内部に入ったら（次のシーンでドラゴンを出さないため。）

03－03　EA　砦・内部（地上）

帝国軍、連合軍の死体が累々と積まれている。
その奥で、騎士団が城内部への入り口に突入していく。
カイムはドラゴンを振り返り、何か大仰な身振りで喋ろうとして
自分の声が出ないことに気付く。

ドラゴン（同情心ナシ）　『声を失ったか……
へらず口はあって百害。
契約の代償としては軽いものよ。』

カイムは戸惑いつつも、テレパシーを飛ばす。

ドラゴン　『案ずるな。我がおぬしの声となろうぞ。』

カイムが驚きつつ、テレパシーで会話。
ドラゴンには通じて、うなずく。

ドラゴン
（受け答え）
『……城へはひとりでゆくか？
うむ。では、おぬしが帰るのを待っておるぞ。』

カイムが剣をかまえる。テレパシー出続ける。

ドラゴン
（受け答え）
『ふん……おぬしが死んだことはすぐわかる。
（覚悟）
我が命もそこで尽きるゆえ……』

カイムはうなずくとドラゴンにちょっと手を挙げ、
きびすを返して走り去る。
そんなカイムの背中を見つめながら……

ドラゴン
（つぶやく）

『憎しみだけでは生き残れまいて……』

03―04　GG

城内部（地上）

（ミッション03―04）

・城内部の騎士団を一掃

※ドラゴンと離れての戦闘。
テレパシーでドラゴンと連絡をとりあえる。

03―05　EA

城・最上階の一室

SE：イウヴァルトと騎士団の怒号。

帝国騎士団の生き残りが3名ほど暴れている。
その中の1名の首根っこをつかまえたイウヴァルトが

イウヴァルト
（ハッとして）

ちからにまかせてぶん投げる。
男は、机と椅子を吹っ飛ばして倒れる。ピクリとも動かない。
教典が床にぶちまけられ、踏みつけにされている。
フリアエは壁際に寄って、一部始終をじっと見つめていたが、
教典が気になり床を這う。
イウヴァルトは２名を相手に怒声をあげながら剣を振っている。
（※フリアエの動きに気付かない）
フリアエが教典に手を伸ばした瞬間、気絶していたはずの残り
１名がムクリと起き上がり、フリアエに手を伸ばす。

フリアエ！

フリアエは後ずさりもせず、抵抗もしない。
騎士団のされるがまま、捕まりそうになる。
そこへカイムがドアを蹴破って入ってくる。

イウヴァルト
（心強く思う）

カイム！

カイムは振り向きざまにイウヴァルトと戦っていた2名を斬り、
次の獲物に向かう。
ふきだす血しぶきを、動けずにいたイウヴァルトがかぶる。
壁もたちまち血で赤く染まる。
残り1名の騎士団はがちがち震えながら、フリアエを楯にする。

騎士団員
（恐怖）

そ、それ以上近づくと女神の命が……

カイムは最後まで聞かず、剣を思い切り振りかぶってジャンプ。
早業で騎士団員を引き倒すと、上から刺し貫く。
（※この時点で、カイムはキレてます。もはや返り血をよける
冷静さはありません。憎しみと殺しの快感に浸ってます）
カイム、血だらけの顔。狂気の表情。

フリアエはカイムの突飛な行動にも微動だせず。

イウヴァルト（鼻白む）　カイム……

イウヴァルトが呆然と立ち尽くす。
女神は最後の騎士団の血しぶきがかかったまま、目を閉じて立つ。
腕を組むか頭を下げるかで祈りのポーズ。特に動揺は見られない。

03—06　EA　城・最上階の一室

カイムが尋常じゃない顔（目がイッてるとか舌がだらんと出てるとか）で刺し貫いているところを後ろからイウヴァルトが抑える。

イウヴァルト（咎めて）　カイム！　もういいぞ！
もう、死んでる……

カイムはぼんやり虚ろな目でイウヴァルトを振り返る。
カイムもイウヴァルトもフリアエも顔が血だらけだ。

イウヴァルト
（呆れる）
相変わらず、激しいヤツだな。

イウヴァルト
だが……助かったよ。またおまえに助けられた。

カイムはもどかしげに自分の喉を指差し、次いでイウヴァルトとフリアエを指す。その動作を繰り返す。

イウヴァルト
（いぶかしげ）
カイム？　おまえ……喋れないのか？

カイムはもどかしげに、自分の身体（舌）に刻まれた契約者の証、〝紋章〟を見せる。

イウヴァルト（ひらめいて）　〝契約者〟に⁉

カイムはつまらなそうにうなずく。

イウヴァルト　この城も、もう安全じゃない。
俺は……フリアエをエルフの里に
連れていこうと思ってる。

カイムが驚いたように手足を動かす。

イウヴァルト（力説）　あそこは永世中立の里なんだ。
きっと帝国軍も簡単には手が出せないはずさ。
女神を連れ回すなど畏れ多いことだが
……こんな世だ、仕方あるまい？

カイムがフリアエを見て、次いでイウヴァルトを見る。
（果たしてそれが一番安全かどうか？　カイムは考えているのだ）

イウヴァルト　今やフリアエは世界の封印を保つ女神だ。
（懇願）　……しかし、もともとは俺の許嫁なのだ！
死なせたくはない!!
なぁ、カイム。俺にまかせてくれ!!

イウヴァルトの力説にも、フリアエの顔は無表情なまま。

イウヴァルト　カイムにとっても、フリアエは
女神である以前に大切な妹なのだろう？

カイムが肩をすくめる（「やれやれ、おまえにゃ負けるぜ」）

03—06 MV　城・最上階の一室

イヴァルト　それでは、祝杯を……。

イヴァルトは倒れたイスを戻して、座る。ハープ準備。

イヴァルト　いつもの歌だが……。

フリアエはかすかに笑ってうなずく。カイムも目を閉じる。
イヴァルトはハープをつまびく。流れるような指先。
イヴァルトの男っぽい歌が部屋を満たし、しばしの平穏。

イヴァルト（歌）　ジョーイエ・トリステーセー・カールメール・デゥークス・ク・
アミ・サボーイル・ト・ベッソイーヌ・エースト・アーモールー

（※繰り返し）

【04　交錯する想い】

04－01　EA　夜営キャンプ地

城を出てから数日後。早朝の朝もや。キャンプ地らしく、いくつかのテントが張られている。

沼地の近く。遠くに森が見える。

テントの脇に、昨日の夜の火の残骸が残る。

ドラゴンの脇に来て、カイムが何やら考え込んでいる。

イウヴァルトとフリアエもそばにやってくる。

ドラゴンはピクリと首を持ち上げる。

イウヴァルト
（怪訝に）
どうかしたのか？

ドラゴン
（落ち着いて）
『エルフの里が襲われた。

おそらく……全滅だな。』

イウヴァルト
（驚き）　なっ……

ドラゴン
（にべもなく）　『〝声〟を感じるのだ……我らは……』

ドラゴンに同調するカイム。
納得のいかない様子のイウヴァルト（カイムに対する劣等感が顔を出す）

イウヴァルト
（カッとして）　まさか！
契約者のちからだか何だか知らないが……
この目で見ないことを……信じられるか！
（ヒステリック）　出発だ！　出発‼　エルフの里へ向かうぞ！

イウヴァルトが歩き去る。フリアエも続く。
が、いきなりコケる。（か血を吐くか）

イウヴァルト（驚いて）　フリアエ！

フリアエ（無感情）　平気です。すみません。

イウヴァルト（ドラゴンへ）　平気なものか！
彼女の身体は
封印の負荷により限界にきている。
一刻も早く休めてやりたいんだ。

カイムはドラゴンと顔を見合わせ、仕方なく後に続く。

04−02 GA

エルフの里への途中の道(上空)

(ミッション04−02)

エルフの里へ向かう途中に逃走する敵を追撃。

上空の敵と出くわす。カイムがドラゴンに乗って高々と舞い上がる。

1人たりとも生かしてはおけぬ、といった気迫で。

イウヴァルトやフリアエは、帝国軍へのカイムの尋常ならざる

憎しみを感じる。

〈会話が可能ならば〉

・「ここに敵がいるということはやはり、エルフの里は……」と絶望視するような言葉を。

・封印が解かれると、女神が死ぬこと。

・この世界でのドラゴンの扱い。

04−03 GG

山脈地帯(地上)

（ミッション０４—０３）
木が生い茂り、下を歩いていたのでは道もない状態。
カイムが低空を縫うように進み、エルフ集落を見つけてやる。
低く飛ぶ時は木に当たらないように飛行技術が必要になる。
あまり高く飛ぶと、帝国軍に見つかりいらぬ戦闘が始まる。

〈会話が可能ならば〉
・エルフの里への道筋のヒント等

０４—０４　ＥＡ　エルフの里・入り口付近

小さな山村。原色の色遣いのかわいい家が並んでいた……
はずだが、今は一面が焼け野原になっている。死体の山が出来ている。
イウヴァルトはこの光景にショックを受けて、頭を抱える。

イウヴァルト（幼児化）
地獄だ……地獄だよ……僕、どうすれば……

ドラゴンとカイムにテレパシーが届く。

ドラゴン　『神官長ヴェルドレから〝声〟がきたぞ。』

イウヴァルト（我に返る）　〝声〟？　神官長も契約者なのか？

ドラゴン　『うむ。相手のドラゴンは、すでに石化しておるがな……。』

フリアエ　彼は今どこに？

ドラゴン　『神殿巡礼中で砂漠にいる……非常事態を危惧し、

女神の保護を申し出てきた。早急に向かうが良い。』

イウヴァルト（自嘲）　……すまない、フリアエ。

俺ごときではやはり……おまえを守れないな。

フリアエ（慰め）　あなたの歌に、私は癒されます。

イウヴァルト（自嘲）　歌など！

（祈り）　……俺は……ちからが欲しい……

イウヴァルトとフリアエが出て行こうとして、カイム達を振り返る。

イウヴァルト（怪訝に）　行かないのか？

カイムはジェスチャーで「ここに残る」と。

ドラゴン
（カイムを代弁）
（はっぱをかけて）

『我々はもう少しここを調査してから向かう。
……フリアエはおまえに任せるそうだ。
しっかりやれ。』

イウヴァルトはうなずいてフリアエと去る。
カイムは死体の山を踏み越え、奥地へと歩を進める。

04—05　EA　エルフの里・内部奥地

エルフと共倒れになった帝国軍の遺体をカイムがいじくりだす。
帝国軍の遺体には血文字で天使の教会の詩
ドラゴン、カイム共に驚く。

ドラゴン

（読み上げる）『……天使を語ってはならない。
天使を描いてはならない。
天使を書いてはならない。
天使を彫ってはならない。
天使を歌ってはならない。
天使の名を呼んではならない。

（驚き）……なんだ、これは⁉』

カイムはじっと血文字を見つめているが、やがてきびすを返す。
歩き去る。

＊　＊　＊

○レオナールが仲間にいたら……（以下のシーンが続きます）

04―15　EA	エルフの里・入り口

家の外で、レオナールが目に手をあてて、じっと立ち尽くす。

カイムが「さっさと行くぞ」とばかりにレオナールを蹴る。
レオナールがカイムに向き直る。

レオナール（厳かに）　……視えます。
森が……燃えている。

ドラゴン　『何処を視ておるのだ？』

レオナール（透視）　これは……封印されし森？
帝国軍が侵攻しているようです。
……どうしますか？

ドラゴンとレオナールの目がカイムに注がれる。
（プレイヤーに判断がゆだねられる）

【05　偽りの国】

05—01　EA　エルフの里・奥地

公共の広場になっていた場所のように、ひらけた場所。
運動会のように旗が張り巡らされていたが、それも燃え尽きている。
倒れていたエルフがよろよろと手を挙げる。
近寄るカイム。あまり思いやりもなく、乱暴にゆする。

エルフ（息もたえだえ）　この近くの渓谷に……
〝天使の教会〟の宮殿があります。
そこにみんな捕らえられて……

ドラゴン　『また天使か……いったい何なのだ？』

エルフが絶命。カイムは感情もなく、ただ首を振って立ち上がる。
（ここでブラックアウト。時間経過で次のプレイパートにつなげる）

０５—０２　ＧＡ　山岳地帯（上空）

（ミッション０５—０２）
ドラゴンの背に乗ったカイムが舞い上がる。
凸凹の激しい山岳地帯。影になる場所が多いため、宮殿の位置を見つけるのが難しいし、敵も潜みやすい。
やっと見つけた宮殿の周りには半透明の膜が覆っていた（結界）。
むやみに触れると、ドラゴンに感電したような衝撃が走る（揺れます）。
結界を作り出している石（装置）を先に破壊しなければならない。
〈ヒント（会話）〉
・天使の宮殿を見つけるんだよね？という前シーンからのつながりを確認。
・宮殿の位置（山岳地帯の陥没地帯）。
・大勢のエルフが天使の教会の宮殿に捕らえられていること。
・結界をまず破壊しないといけないこと。

・火口に侵入するやり方（地表すれすれか？急降下か？）
・宮殿なのにボロい。

05—03 GG

山岳地帯（低空）

（ミッション05—03）
結界がなくなると、宮殿に入れるようになる。
山岳の岩や自然の木等、地形をそのまま利用して、
立派な祭壇が作ってある。ろうそくの灯り。主人公達の影が伸びる。
祭壇に祭られていた像（もしくは棺）から、次々と悪霊が襲ってくる。
まさに、ゴースト襲来。殺してもラチが明かない。
反対側の岩の影あたりに司祭が隠れている。（床に影が伸びているので
気付けるハズ）
司祭からまず、倒さなくてはならない。

〈会話が可能ならば〉
・囚われたエルフはどこに？
・ゴーストを操っているものを先に探せ！

05—04 EA　〝天使の教会〟の宮殿・内

建物は崩れかけ、半分中、半分外、といった感じ。
自然の石や木を利用して出来た宮殿内は天上が高い。足音が反響する。
わずかなエルフの死体が転がっているだけ。
立ち尽くすカイムとドラゴン。
カイムが疑問を投げかけるように、ドラゴンのほうを見る。

ドラゴン　『エルフ達はどこか別の場所に運ばれてしまったか』

カイムからテレパシーオーラが立ち上る。（ドラゴンに話しかけている）

ドラゴン
（受け答え）　『……帝国軍の目的？　我が知るはずなかろう。
（吐き捨てる）　人間の考えはあまりに卑小すぎて、想像もつかぬわ』

カイムは帝国軍の死体をじっと見下ろす。

ドラゴン（怪訝に）　『赤い眼がどうかしたか？』

カイムが赤い眼について語ろうと、ドラゴンを向いた時。
ヴェルドレからのテレパシーが入る。
ドラゴンとカイムが一斉に空を見上げる。

ドラゴン（切迫して）　『ヴェルドレ!?
……〝声〟が……途切れたぞ。』

カイムははっとして、剣をふりかぶる。

ドラゴン　『砂漠へ急ぐがよい。

女神にも危険が迫っておるかも知れぬ。』

＊　＊　＊

○飛行兵器すべての破壊および司教を全滅させたら……（以下のシーンが続きます）

05—14　EA　〝天使の教会〟の宮殿・内

瀕死の人間が走り寄ってくる。（カイムにすがりつく感じで）

人間（瀕死）　た、助けてください！
我々の村が……帝国軍に……

ドラゴン　『おぬし、何処の者だ？』

人間　この先の……妖精の谷です。

どうなってることやら……うぅ。

カイムは無情に人間を突き飛ばすと、妖精の谷へ向かって歩き出す。
その背中にドラゴンが話しかける。

ドラゴン
（咎めて）
『おぬし、助けにゆくのか？　殺しにゆくのか？』

【06 孤独な戦い】

06—01 GA

渓谷(上空)

(ミッション06—01)
谷底には、綺麗な川が流れている(いかにも妖精が棲みそうな……)。
妖精の谷に近づくにつれ、その川が濁っていく。(火の粉や血で)
途中、帝国軍と遭遇。戦闘になる。
帝国軍と出くわすと、やつらも妖精の谷へ向かっているため、方角が容易にわかるようになる。

〈会話が可能ならば〉
・妖精の谷の場所
・女神が死ぬと封印が解けてしまう。女神そのものの体が封印なのだ。

06—02 MV

妖精の谷・レオナールの家の外

曇り空の明け方。
火の海。今にも崩れそうな家の外で、レオナールが立ち尽くしている。
目の前には兄弟達の死骸が転がっている。

レオナール（呆然と）
こんな情けない兄を許しておくれ。
ラウム、リベサル、
ルーキフーゲ、……弟達よ……

レオナールは死骸に背を向けて、自害しようとする。
腹　喉に剣を突き立て、血があふれる。
レオナールに激痛。ブルブル震え、自分でトドメを刺すことが出来ない。
と、フェアリーが光と共に出現。

フェアリー
クックックッ…ばかじゃねーの。
本気で死ぬ度胸もないくせに……。

かっこつけてんじゃねーよ。ヒーヒッヒヒ。

06―02　EA　妖精の谷・レオナールの家の外

レオナール（深手負い）
……私は汚らわしい人間なのです。
……弟達が殺され、家が焼き払われていることも知らず、
裏の林で……煩悩の赴くまま……この手で……

フェアリー（いやらしく）
アレか？　おまえ、ひとりでお楽しみにふけってたか？
その間に、兄弟達は死んじまった、と！
ヒヒヒヒーッ！　そりゃお気の毒っと！
ますますおもれぇ！　1等賞！

フェアリーは兄弟の死体の周りを飛び回る。

フェアリー（面白がって）

うげぇ！　こりゃまた気色悪い死体だなァ。
おいおい、見ろよ。この恨みがましい目！
最期に何見て死んだんだろなー？　キャハハ。

レオナールはぐはあっと血を吐く。

レオナール（瀕死で）

見たくありません。……私には見られないっ！

フェアリー（嘲笑う）

キャハハハハ！　気持ち悪いってかァ？
人間なんてダメだね。ぜんぜんダメ！
汚いし、臭いし、……タハッ、死ねばぁ？
そーだ！　死ねよぉ！　いのち捨ててちょうだい！
ダメダメダメダメダメ。最低。はい、決定！

レオナール（意識遠のく）　私は……

フェアリー　キャハハハハ！　怖いんだろ？　死ぬのがよっ！
死にたくねぇんだろ？　本当はよっ！
ワアチャー‼
うざってぇ‼　マジで！　さっさと死ねよ‼
………待てよ？　な・ん・な・ら！
ちょっと〝契約〟してみっか？

レオナール（疑問）　それは……どういう……？

フェアリー　スカスカの頭がアレのことでいっぱいの
おめぇは……これから俺の奴隷デース。キャハ。

さっ、契約しましょうねえ！　死んじゃいマスからねえ。
キャハハハハーハ！　ダッサー！
ウソ、ウソ、お願いしマース。契約してくだサーイ！

レオナールは重傷のため、もはや起きあがることすら出来ない。
フェアリーのなすがまま、横たわって契約。

06―03GG

妖精の谷・中腹（地上）

（ミッション06―03）
火の粉を払いながら、倒れてくる木を避けながら、奥へと入っていく。
ここでしか見られないような木が生えている。いずれも背が低い。
前に手負いながら逃げようとしているゴブリンが見え隠れしている。
ヤツにとどめを刺したいところ。

〈会話が可能ならば〉
・レオナール出現。「待て！　話しあえ！」等、カイムが最後の

敵を斬ることを阻止しようとする。（でも斬るんですけど）

06—04 EA
妖精の谷・奥地

広場っぽい場所。
一面に生い茂るキノコの周りに、帝国軍やゴブリンの死体が転がっている。
カイムはレオナールと対峙する。
レオナールの周りにはフェアリーが飛び回っている。
レオナールは目を閉じたまま、空気を読むように耳をすます。

レオナール
（測るように）
……そちらは、連合軍の兵士さんですね？
剣さばきの音でわかります。
初めまして。私……レオナールと申します。

カイムが何かを察知して、テレパシーを飛ばす。

レオナール
（受け答え）

……あぁ、私は目が見えません。
そう、君と同じく契約の代償です。

ドラゴン
（同情心ナシ）

『闇より明るい希望はなし……。
人間の愚かさを見ずに済むとは幸運よ』

レオナール
（やりきれない）

見ずとも……感じますから。

レオナールが帝国軍の死体を弔おうとしゃがみこむ。
カイムがもどかしげに体をゆする（早く行こう！）と、

SE：カイムの鎧が鳴る音

その音に反応してレオナールは顔を上げる。

レオナール（諭すように）　……死者はもはや土塊（つちくれ）と同じ。
悼むべき存在です。

カイムはまたもやもどかしげに体をゆする。

SE：カイムの鎧が鳴る音

レオナール（諦めて）　……わかりました。

レオナールは両手を挙げて立ち上がる。

レオナール　君に従いましょう、カイム。
死体はこのままにして砂漠へ急ぐことにします。
私とて、女神達のことは心配ですから……。

レオナール

カイム達が去った後、レオナールは死体を振り返る。

……誰にでも

赦される権利はあると信じたい……。

あざ笑うようにフェアリーの光が激しく飛び回る。

レオナールは手早く死体達に礼（せいいっぱいの祈り）を捧げた後、きびすを返して慌ててカイム達を追う。

【07　封印されし神殿】

07—01　EA　砂漠

夜。一面の砂漠。しかしよく見れば、ところどころに穴が空いている。（スターウォーズでR2D2が隠れていたような場所）
カイムが近づくと、そこからフリアエが這い出てくる。
女神であることを一瞬忘れたかのように、無我夢中でカイムに抱きつくフリアエ。

フリアエ（一瞬の激情）　兄さん！
よくご無事で……

カイムも嬉しそうなジェスチャーをする。

ドラゴン

『ヴェルドレとイウヴァルトは？
捕らえられたか……？』

フリアエ　……はい。
私をかばって……。

カイムがドラゴンに向き直る。テレパシーで語りかけている。
ドラゴンはうなずく。

ドラゴン（受け答え）　『そうさな……捕虜収容所が近くにあるはずだ。
そこをつぶすのが、一番確実な救助方法だろう。』

カイムがフリアエを向く。（おまえはだいじょうぶか？と聞くように）
フリアエはしっかり姿勢を正してうなずく。

フリアエ

私ならだいじょうぶです……女神ですから。
兄さん、早くヴェルドレとあの人を助けてあげて。

フリアエが手を振る中、カイムとドラゴンは出撃。

07―02　GA

捕虜収容所（上空）

（ミッション07―02）

夕焼け空。暮れかかっている。
砂漠の上を飛んでいくと、規則正しく並ぶミニチュアのような収容所が見えてくる。
近づいていくと、地上では敵味方が乱戦を繰り広げている。
味方を傷つけないよう、敵をやっつけたいところ。

〈会話が可能ならば〉
・収容所の場所（方向）

・味方兵を傷つけないこと
・低空、上空を使い分けること
・帝国軍兵士をすべてやっつけること
・イウヴァルトとカイム、そしてフリアエの関係

０７—０３　ＧＧ　捕虜収容所（地上）

（ミッション０７—０３）

日が落ちた。雲が厚い。闇の中の戦いとなる。
カイムは帝国軍兵士達を撃退して、地上に降り立つ。
プレハブ小屋を鉄製にしたような牢がえんえんと並んでいる。
脱獄出来た兵達はさっさと逃げ始めるが、その中にヴェルドレとイウヴァルトはいない。
自力で動けない者、警備が厳重な場所に収容されている者が逃げ遅れているので、牢の鍵を壊したり、味方を呼んだりして、全員を逃がしていく。たまに敵が潜んでいるので気をつけよう。
同時に、ヴェルドレ達を探すこと。
ヴェルドレは一番奥の警備が厳重なところにいる。

〈会話が可能ならば〉
・ヴェルドレを探すこと
・イウヴァルトがどこにもいないこと

07―04 EA　捕虜収容所・外

星のない晩。
帝国軍の死体と逃げていく味方兵でごったがえす。

SE：逃げまどう人々の声、悲鳴。

カイムがたたき壊したドアからヴェルドレが出てくる。
ヴェルドレと向かい合うカイム。（初対面）

ヴェルドレ　おぉ……そなたがカイムか？

カイム、いちおう恭しく礼。

ドラゴン　『ヴェルドレ。おぬし、何か知っていることがあろう？
答えよ。今、何が起きているのだ？』

ヴェルドレはドラゴンの前にひざまずく（最敬礼に等しい挨拶）

ヴェルドレ　……帝国軍は国への介入に飽きたらず、
もっと根本的なところから創造しなおそうと
しているようです。

ドラゴン
（嫌な予感）　『……世界か？』

ヴェルドレ

はい……封印がすべて解けた時に
出現すると言われている〝再生の卵〟……
彼らの狙いはそれでしょう。
だから最終封印である女神の命まで……

ドラゴン
（含みアリ）

『〝再生の卵〟だと？……
真実を都合のよい神話にゆがめるのは、
人間どもの悪い癖だ。』

ヴェルドレ
（わからない）

？

ヴェルドレはカイムを向く。

ヴェルドレ
（カイムに）

帝国軍の聖地破壊を止めてくれぬか？

封印を解いて世界が無事なはずがない……。
まして、神殿の封印がひとつやぶられるごとに
……女神の負荷はますます重くなるのだ。

カイムはうなずき、剣を掲げる。（暴力で止める、という意）

ヴェルドレ
（非難）

おぉ……そんな……！
帝国軍とて人の子、慈悲を持って穏便に……

カイムは首を横に振り、ドラゴンのそばに行く。

ドラゴン

『この男に説教は無駄だ。
世界がどうなるかより、己の恨みを
どう晴らすかで頭がいっぱいらしい』

カイムは肩をすくめる。
ヴェルドレは祈る。

ヴェルドレ
（祈り）
神よ……哀れな子供らに祝福を。

カイムはヴェルドレを置いて歩きだす。

ドラゴン
（つぶやき）
『祈る者と殺す者に何の違いがあろう？
ひと皮むけば、人間など、みな
おしなべて愚劣よ。』

＊　＊　＊

○アリオーシュが仲間にいたら……（次のシーンが０７―０４と０７―０５の間に
入ります）

07—14　EA　捕虜収容所・外

アリオーシュがくつくつ笑いながら、カイムの前に立ちふさがる。
ウンディーネとサラマンダーが光の玉のように、アリオーシュのまわりを飛び回る。

サラマンダー・ウンディーネ（声をそろえて）　無駄だ。

ヴェルドレ　それはどういう……？

サラマンダー　砂漠の神殿の封印は
すでに破られた。

ウンディーネ

そなたらは何も感じぬのですか？

ヴェルドレは膝をつき、呆然としている。
カイムに小突かれ、ヴェルドレは正気に戻る。

ヴェルドレ
（呆然と）
う、うそだ！
封印が破られるなんて……

一行は海の神殿へ向かう。

07―05　EA　砂漠の秘密基地

下は砂地。しかし、高い鉄壁に囲まれており一見どこだかはわからない。
イウヴァルトが鎖で張り付けになっている。

イウヴァルト

（弱々しく）　俺に……俺にちからがあれば……

と、姿は見えないながら、平坦なしゃがれ声だけ響いてくる。

マナ（男声）（代弁）　俺にちからがあれば、フリアエを守れるのに。

イウヴァルト、あたりを見回す。

イウヴァルト　誰だ⁉

マナ（男声）　フリアエを守り、俺だけのものにするのに。

イウヴァルト（強く）　やめろ！

マナ（男声）（心を暴く）　俺の腕に抱き、誰にも渡さないのに。
俺の許嫁なのに。俺だけを愛してくれるはずなのに。

イウヴァルト（弱々しく）　やめてくれ……。

マナ（男声）　俺だけのもの。俺だけの女。フリアエ……
誰にも渡さない。フリアエは渡さない。誰にも、
誰にも、誰にも……カイムにも！

イウヴァルトは頭を左右に振る。

イウヴァルト（必死）　ちがうっ‼　ちがうんだー！

マナ（男声）　僕を愛して、フリアエ。僕だけを見て。僕だけを抱いて。抱きしめて。僕だけを愛して。愛して。愛して。僕とつながって。深く。深く。深く。めちゃくちゃに。僕だけを玩具にして。玩具になって。めちゃくちゃに。

イウヴァルト　（絶叫）

マナ（男声）（冷静な預言）　……女神は死ぬ。

イウヴァルトが顔を上げる。

マナ（男声）　封印役は精神、体力、共にむしばまれる。必ずや近い将来、命を落とすだろう。

イウヴァルト　……それが、女神の役回りだ。

マナ（男声）　そんなっ！

（甘いささやき）　本当はただの女なのに。
おまえの横で子を抱き、しあわせに
笑い続けるのが似合う、ただの女なのに。

イウヴァルト
（朦朧と）　女神の任を降りれば、ただの女に戻れるのか？

マナ（男声）　……命は延びる。

イウヴァルト

（すがる）　俺は……どうすればいい⁉
フリアエを助けたいんだ！

マナ（男声）　ちからが必要だ……。ドラゴンと手を結ぶような
強大なちからが……。

イウヴァルト
（思い当たる）　……カイムだ。
カイムなら！

マナ（男声）
（焚き付ける）　カイムで良いか？
フリアエの感謝と愛を一身に浴びるのが、
本当に、カイムで良いのか？

イウヴァルト

（迷い）　……俺は……

マナ（男声）
（催眠術っぽく）　俺が許嫁なのに。フリアエのキスは俺が受けるべきなのに。俺だけを見てほしいのに。愛してほしいのに。
ちからがあれば、俺は、ちからがあれば、あれば……

イウヴァルト、落ちる（洗脳終了）。がくりとなる。

イウヴァルト
（洗脳されて）　ちからがあれば……

雷光きらめく。雨がふってきたようだ。

【08　砂漠の神殿】

08―01　GA

砂漠の神殿（上空）

（ミッション08―01）

夜。雷光、雨の中。

砂漠の中に立つ大理石の神殿。長い年月を経てもなお頑丈そう。

柱が何本もあって、軽い迷路のような造りになっている。

そこに、味方の駐屯地が作られている。

神殿の周りは帝国軍に包囲されている。

味方が手を振りながら助けを求めている。

神殿を壊さないように駐屯地をまわり、味方を救助。

08―02　GG

砂漠の神殿（地上）

（ミッション08―02）

夜。雷光、雨の中。

08—03　EA

ドラゴン

砂漠の神殿・内

ドラゴンを降り、いざ迷路のような神殿の中へ。
封印の場所はヴェルドレが知っている。
カイム（プレイヤー）はヴェルドレが進むほうへ付き合い、擁護してやる。
敵があらゆる場所から襲いかかってくるので、剣で斬り捨てていく。

〈会話があれば〉
・イウヴァルトのハープ発見？

雷の音。
石の柱が何本も立っている広い部屋。床は大理石。
ヴェルドレが一歩一歩、封印の印のある場所へ近づく。
ドラゴンが何かを嗅ぎつけたかのように、首をもたげる。

『危ない！』

上空から突如現れたモンスターに、ヴェルドレがやられる。

ヴェルドレ
（やられて）
ぐはあっ！

ドラゴンが代わりにモンスターと対峙する。

ドラゴン
（一喝）
『闇を汲みし者よ、我の前から消え失せろ！』

08―04　GG
砂漠の神殿・内(地上)

（ミッション08―04）
サンドワームを暴れさせると、柱が倒れてしまう。
なるべく素早く、的確にしとめたい。
※ドラゴンの背に乗って戦うほうが有利か？　地上戦でいくか？プレイヤーに考えさせる。

しとめたら、フリアエのもとに帰る。（イヴァルトは見当たらない）

〈会話が可能ならば〉

・サンドワームの弱点

08—05 EA　砂漠地帯近く・夜営キャンプ地

雲がどき、星が見えはじめた。

砂地の上にシートを敷き、布のテントが張られている。

（モンゴルの住居みたいなイメージ）

出迎えたフリアエと向き合うカイムとヴェルドレ。

フリアエが深々と頭を下げる。

フリアエ　よくぞご無事で。

……イウヴァルトは？

カイムはフリアエに近づき、イウヴァルトのハープを見せる。

フリアエ　これは、ハープ⁉

ドラゴン　『砂漠の真ん中に落ちておった。』

ショックでフリアエが倒れそうになり、カイムが支えてやる。

ヴェルドレ　女神⁉
……砂漠の神殿の封印が破られたゆえ、
あなたへの負荷がだいぶ重くなったのでは？

フリアエ
（苦しそうに）　平気です。私なら……平気です……。

それよりも、イウヴァルトが……。

＊　＊　＊

○サンドワームを規定時間内に倒せたら……（次のシーンが続きます）

08—06　EA　砂漠地帯近く・夜営キャンプ地

ヴェルドレが空に向かって耳を澄ます。

ヴェルドレ　カイム、聞こえぬか？

カイムが耳を澄ますように、体の向きを二、三度変える。
そして、首を横に振る。（聞こえない）

ヴェルドレ　かぼそく、しかも少々クセのある〝声〟だ。

ドラゴン　聞きとれなくても無理はないが……。

（危惧）　『……。
おぬしら、この〝声〟の持ち主と関わるつもりか？』

ヴェルドレ　放っておくと危険かもしれません。
無視はできないでしょう。

ドラゴン　『自分の力を知っての発言か？
（皮肉）　……足手まといほど網にかかりやすいものよ。』

ヴェルドレ　……発信源、わかりませんか？
（意志は固い）

ドラゴン
（あきらめ）

『……砂漠にある帝国軍の牢屋だ。』
カイム達は見知らぬ〝声〟の持ち主（アリオーシュ）の救助に向かう。

【09　叫び】

09—01　GA

砂漠（上空）

（ミッション09—01）

ヴェルドレを救った場所からさらに砂丘ひとつ越えた場所に、アリオーシュの牢屋はある。（帝国軍の牢屋）

たくさん並ぶプレハブ小屋のような牢獄の中には、グリフォンが入っているものもある。

間違わないように、本当の牢獄へ急ぐこと。

※歌声や笑い声等、目標となるものがあれば良いのですが。

〈会話が可能ならば〉

砂漠の牢獄へ急ぎたいドラゴン・ヴェルドレと、帝国軍はどんなに小さい規模でもつぶしていきたいカイムとの言い争い。

09—02 EA

砂漠の牢獄・廊下

プレハブ小屋のような牢獄。
真夜中。暗い。どこからともなく忍び笑い。不気味な女の声。
二人組の看守（帝国軍）が話しながら歩いてくる。
※以降の会話シーン、アリオーシュのうなり声を背景に。

看守1　何度聞いても薄気味悪いな……あの声は。

看守2　そうか？　聞きようによっちゃ、興奮するぜ。

看守1　はっ！　おまえはメスなら何でもいいのか？
あのイカれエルフにも発情するか？　病気だな。

（吐き捨てる）あいつの目を見たことがあるだろ？　笑ってても
死んでる目……狂ってるよ！

看守2　……あぁ、完全に狂ってる。
いっそ家族といっしょに殺されときゃ幸せだったのにな。

※アリオーシュの声、ひときわ高く。

看守達は顔を見合わせる。
ひとつのドアの前で立ち止まる。看守2がドアにかがみこむ。

看守2　……やれやれ。
おとなしくさせてくるか。

看守1

（怯えて）　気をつけろ。食われんぞ！

看守2
（余裕）　だいじょうぶだ。ヤツの舌に適うのはガキだけだろ？

SE：遠くで爆発音。

看守1
（爆発音に驚く）　なんだっ？

SE：次々と爆音が聞こえ、次第に大きくなる。

看守2
（声途切れる）　連合軍の攻撃だ！　ヤツら……

爆音とともに白フェード（この場所も爆撃された）

09—03 MV　砂漠の牢獄・崩壊後

砲撃でボロボロになった独房内。
何重もの鎖にまかれ、人を噛まないように拘束具をつけられた
アリオーシュが倒れている。

アリオーシュ
（口ふさがれて）　うー。うー。

光（サラマンダー、ウンディーネ）がアリオーシュの周りを飛び回る。

サラマンダー
ウンディーネ
（声をそろえて）　死ぬにはまだ早いぞ。

アリオーシュが拘束具をつけたまま頭を少し起こす。

サラマンダー
ウンディーネ

（声をそろえて）
そうだ……我々と来い……。

0 9—0 4 G A
砂漠の牢獄（上空）

（ミッション0 9—0 4）
やっと牢獄を見つけた。
しかし、そこには他の囚人達も多く捕らえられたままだ。
このままだと建物の破壊によって死んでしまう。
とりあえず逃がしてやろう。
敵がいる時は囚人が口笛かハンカチを振るなどして、教えてくれる。
隠れたり、あえて真正面からぶつかったりして、敵を蹴散らす。
ここの牢獄は、味方さえ救出すれば跡形もなく壊していい。
（破壊の楽しみ）

0 9—0 5 G G
砂漠の牢獄（地上）

（ミッション0 9—0 5）

・弱く異常な精神波を送ってきていた者の居場所
（弱すぎるため、今のカイムには関知出来ません）
ヴェルドレやドラゴンのテレパシー誘導に従い、
カイムはアリオーシュの牢獄までひた走る。敵は倒す。

09—06 EA 砂漠の牢獄・崩壊後

カイムが穴（銃の跡）だらけの扉を蹴って入っていくと、
そこにサラマンダーとウンディーネを従えたアリオーシュが立つ。
雲間からあらわれた月光が帯となって射し込み、凄絶な美しさ。
カイムの後から入ったヴェルドレがおずおずと近づく。

ヴェルドレ　そなた……契約者か？　名はなんと？

アリオーシュ　アリオーシュ。

ヴェルドレ　（同情）おぉ……子宮をなくされたか？

アリオーシュ　（意に介さず）ねぇ？
どこかに子供はいないかしら？

ヴェルドレ　心配せんでも、優先的に保護されておる。

アリオーシュ　ふぅん……いないの？　残念。
（さらりと）美味しいのに。

ヴェルドレとカイムが驚いて顔を見合わせる。
アリオーシュは素早くカイムを捕まえる。
長い爪がカイムの喉に突き刺さりそう。歯を剥きだす。

アリオーシュ（舌なめずり）　じゃあ、大人でいいわ。

ドラゴン　『人喰いエルフか！』

ヴェルドレが背後からアリオーシュの前に杖を突き出し、呪文を唱える。

ヴェルドレ（呪文）　ク・アボーイル・レヴェ・ヴォーレー・セレ・ヴェーイーレー。

（※繰り返しの後「ハッ」と気合い入れ）

アリオーシュは白目を剥き、がくりと膝をつく。

ヴェルドレは額の汗をぬぐい、カイムとドラゴンに向き直る。

ヴェルドレ　とりあえず〝鍵〟をかけました。

ドラゴン
（嘲笑う）

だが、いつまたタガが外れるかわかりません。
周りの人間、および彼女自身のためにも、
私が連れてゆきます。

『……それが人間の優しさか？』

ドラゴンはヴェルドレの行為を「偽善」と嘲笑う。

【10 残存の勢力】

10—01 EA　砂漠地帯近く・夜営キャンプ地・外

夜明け近く。地平線のそばが明るくなっている。
砂漠にはいくつかのテントが張られている。キャンプ地なのだ。

SE：風の音

剣を支えにうとうとしていたカイムが目を覚ます。

ドラゴン
（嫌な予感）
『この匂いは……？』

ヴェルドレ
（影を見つけた）
ドラゴン⁉

ここで、画面を左から右にサッとブラックドラゴンが横切る。
同時にイウヴァルトが着地。
フリアエが前に出る。手を挙げる。

フリアエ
（驚きと嬉しさ）
イウヴァルト！

ヴェルドレ
ドラゴンを連れているとは……
そなた……いつから契約者に？

イウヴァルトはヴェルドレやカイムを一瞥もせず、ただまっすぐ
フリアエに手を伸ばす。

イウヴァルト
（夢見るように）
フリアエ……俺のもとへおいで。
何も怖くない。何も怖れるな。

世界はきっと良くなる。
君だけが犠牲にならなくていいんだ。

イウヴァルトの異変に気付き、後ずさるフリアエ。

SE：ハープの音（不快な音）

カイムが間に入る。
イウヴァルトの目が赤く光っている。

ドラゴン
（事情を悟る）
『……堕ちたか』

カイムが目を剥く。絶望と怒りの表情。
イウヴァルトがひっと頭を庇う。それは子供じみた仕草。

イウヴァルト

（子供っぽく）　僕、弱くなんかないよ。カイム！
そんな目で僕を見ないで。僕もっと強くなるから！

イウヴァルト　歌を失くしたものの……
（大人に戻って）　俺は強くなったんだ、カイム。
だから安心してフリアエを任せてくれ。

カイムはフリアエをかばって後ろにやり、剣をかまえる。

イウヴァルト　またその目か……。
（憎々しげ）　俺はおまえのその目がずっと嫌だった。
俺をさげすみ、憐れむその目が‼

カイムはじっとイウヴァルトをにらんでいる。

イウヴァルト　復讐のためなら、妹をも犠牲にする

（叫び）　おまえより……俺はずっとまともだ！

10—01　MV　砂漠地帯近く・夜営キャンプ地

イウヴァルトも剣を抜き、カイムとガッチリまじえる。

背後ではドラゴン対ブラックドラゴンの戦いもはじまる。

SE：剣がぶつかる音

イウヴァルトの怪力に、カイムは吹っ飛ぶ。

カイム、口の中を切ったのか、血を吐き捨てる。

フリアエ
（心配して）　兄さん！

カイム（声にはならず）

（ううっ……）

カイムに駆け寄ろうとしたフリアエをヴェルドレが必死に止める。
ドラゴンはブラックドラゴンにやられ、グロッキー。

SE：ブラックドラゴンの咆吼

ブラックドラゴンの目が赤く光っている。
それを見たカイムにフラッシュバックが襲う。
ブラックドラゴンによって無惨に喰い殺された父と母。
泣くカイム。泣くことすら忘れた妹フリアエ。
そしてドラゴンの赤い目……。

カイムは怒りで我を忘れる。
剣をかまえてブラックドラゴンに挑む。結果、イウヴァルトは放ったらかしになる。
ドラゴンはハッとしたようにカイムを見る。

SE：ドラゴンの咆吼（バカモノ！　と同義）
SE：ブラックドラゴンが炎を吐く音

ブラックドラゴンが炎を吐く。
ドラゴンの助けで間一髪、直撃は避けられる。
ドラゴンはブラックドラゴンからさらに傷を負う。起きあがれない。
カイムも熱風に飛ばされた衝撃がひどく、立ち上がれない。
カイムに代わり、ヴェルドレがイウヴァルトの前に進み出る。
モゴモゴと経文をつぶやきながら手をかざす。

ヴェルドレ　ク・アボーイル・レヴェ・ヴォーレー・セレ・ヴェーイーレー……
（呪文）　（※繰り返し）

イウヴァルトは薄ら笑いながら剣で軽々とヴェルドレを斬る。

イウヴァルト

（ヒステリックに）　（笑い）

ヴェルドレ
（痛みに苦悶）　（うめき声）

ヴェルドレの血しぶきが飛び散る中、イウヴァルトはフリアエに近づく。
イウヴァルトはフリアエを乱暴に抱き、口づけをする。

SE：頬を張る音

フリアエがビンタをする。イウヴァルトはひるまない。
肩にフリアエを担ぐと、ブラックドラゴンがやってくる。

イウヴァルト
（勝ち名乗り）　歌の消えた世界に口づけを！

ブラックドラゴンの背に乗ったイウヴァルトとフリアエが

舞い上がって去っていく。
ドラゴンは傷が深くて、立ち上がれず。
カイムが追いかけるも、届かない。
膝をついたカイムのそばにハープが転がっていた。

10—02　EA　砂漠のキャンプ地・外

キャンプの中で、ヴェルドレが横たわっている。包帯だらけ。傷が深い。

ヴェルドレ
（沈痛）
……イウヴァルトに刃を向けられた時、
私の心にあったのは慈悲でも無でも
……恐怖ですらなかった。

ヴェルドレは剣を振り回している（斬る気まんまんの）カイムを見る。

ヴェルドレ

私の心には、怒り、ただそれだけがあった。

（混乱）

……今さら、人に何かを説くことなど……

ヴェルドレはうなだれる。

カイムは肩をすくめ、あっさり背を向ける。（何の憐れみも持っていない）

10—04 GA　荒野の街道（上空）

（ミッション10—04）

「オーク軍の進軍を止めよ」との指令。

カイムの顔が喜びで輝いている。

上空のみでは全滅させられない。

上空、低空、そして地上とめまぐるしく体勢を変えて攻撃する。

ある程度、道端にまとめてから殺すと効率がいい、とか。

〈会話が可能ならば〉

・オーク軍攻撃。戦い方のコツ等。

10—04 GG

荒野の街道（地上）

・ヴェルドレの「進軍を止めよ」という指令に
カイムが「殺す」と答えても、今回のヴェルドレは
強固に反対は出来ない。（イウヴァルトの一件で
憎悪という感情が生じている）
・エルフは人ならざるものを操る
・連れ去られたエルフはどうなってるか？
・連れ去られたエルフはどうなってるか？
・〝再生の卵〟について、ヴェルドレが語る。
・天使の教会をつぶしにいこう。
・帝国領土へいこう。

（ミッション10—04）
地上でオーク軍を攻撃。

10—05 EA

荒野の街道

カイムが降り立つ。
辺りにはオークの死骸がごろごろと。
カイムがじっと死骸を見下ろしている。その背中へ

ドラゴン
（声を掛ける）
『おぬしの両親は……ドラゴンに？』

カイムは答えない。（それが肯定のしるし）

ドラゴン
（慰めの代わり）
『……よし。帝国領土へ急げ。
女神もきっとそこにいる。』

＊　＊　＊

○セエレが仲間にいたら……（次のシーンが続きます）

10—15　EA　荒野の街道

　　セエレが遠くの谷を指差す。

セエレ　あそこ！

　　セエレはカイムにまとわりつく。

セエレ　あそこ！
　　　　僕の妹がいなくなっちゃった谷だよ！

　　カイムはセエレを振り払って、歩き出そうとする。
　　が、セエレも粘り、またむしゃぶりついていく。

セエレ
（必死に頼む）　ねえ、お願い！
　　　　マナの手がかりが何か残っているかも‼

ゴーレム
『テンシノキョウカイ……ノ……テガカリ、モ……』
カイムがピクリと立ち止まる。
セエレは嬉しそうにゴーレムを見上げる。（助け船に感謝）

ドラゴン
（セエレに）
『谷は深く、恐ろしき場所。
おぬしの妹はひとりでそんなところに？』

セエレ
（言いよどむ）
……う、ううん。お母さんが……
（ごまかす）
とにかく！　あの谷でいなくなったんだ!!
セエレはそれ以上喋らず、カイムとドラゴンは肩をすくめあう。
（※この時に、マナが母親から虐待を受けている場面を静止画でよくわからないようにボカして高速表示する）

この後、一行は谷へ向かう。

【11　禁断の地】

11—01　GG

荒野の集落(地上)

(ミッション11—01)

もはや廃墟寸前の村。テントのような家がたよりなげに建っている。

人影はない。(もはや死んでしまったか?)

オークとオーガが略奪の限りを尽くして暴れ狂っている。

カイムはそれを見過ごせない。

敵の大将であるオーガはかなりタフなので、コイツにかかりきりになると敵軍に囲まれてしまう恐れがある。どうやって倒していくか?コツがいる。

11—02　EA

荒野の集落

〈会話が可能ならば〉

・ブラックドラゴンとドラゴンの関係?

・赤い目と教会の関係

大将のオーガが唯一まだ息が残っている。
カイムは乱暴に揺さぶる。

ドラゴン
『我が心を読もう』

カイムがオーガの上に手をかざすと、オーガのテレパシー
（オーラ）がたちのぼる（心を読んでいる）。

ドラゴン
（読み上げる）
『女神……帝国……要塞……
要塞だとっ？
そんなモノ、いったい何処に!?』

カイムは首を振る（※わからない）。そしてハッと体を強ばらせる。
別のテレパシー（オーラ）がカイムとドラゴンを貫く。
ドラゴンも首をもたげる。

ドラゴン（ハッとして）『……この悲鳴は!?』

カイムはうなずく。

ドラゴン『神殿の封印を守るフェアリーの断末魔が聞こえた
ということは……3つの封印は絶望的だな。
（じりじりと）残る封印は……女神の命のみ。間に合うか？』

カイムは苦渋。身をよじる。剣を地面に突き立てる。（焦っている）

ドラゴン『とりあえず、帝国領土へ急ぐのだ！
要塞のことは……それからだ。』

【12　石の声】

12―01　GG

浸食地形（地上）

（ミッション12―01）

霧で視界が悪い。木が生えている。

木にぶつかったり、葉に触れたりすると音がして、

ビホルダー（仮）の大軍に見つかってしまう。

スピードを多少ゆるめてでも、木々の間をすいすいぬって

飛んでいくことが大事。

〈会話可能ならば……〉

・イウヴァルトのフリアエへの想いについて

・ビホルダー（仮）の大群に見つからないようにすること

＊　＊　＊

○低空飛行して霧の中の洞窟入り口を見つけたら……（次のミッションが始まりま

す）

浸食地形・低空

（元ミッション１２―０２）

※【１１】での分岐条件はなくしました。
なので、ここで隠れ里への入り口を見つけたプレイヤーだけが
隠れ里に入り、【１２】のイベントを発生させられます。
その他は帝国要塞へと抜けていきます。【１３】へ。

隠れ里らしく、家らしきものはあまりない。
しかし、襲撃された後なので、カモフラージュの
草木が倒され、質素な掘っ建て小屋が覗いている。
少し和風な家でもいいかもしれません。江戸時代の
長屋のような……。障子を使っている感じの家。
死体が転がっている。
岩が矢印代わりにある方向を指している。

〈ヒントと会話〉
・岩の向きが不自然であること（ゴーレムのちから）
・ブラックドラゴンの気配がないこと

12—03 EA　隠れ里・奥地の家・内

最初は黒BG処理。字幕のみ表示される。

セエレの母（絶命寸前）　……だいじょうぶよ。じき楽に……
あぁ、セエレ！　あなたは死んじゃだめよ。
セエレ……わたしの赤ちゃん……覚えていて。
わたしはあなただけを愛してた……。

セエレがちょこまか二人の死体の横を歩き回っている。

セエレ

（無邪気に）母さん？　母さん？　眠っちゃったの？
父さんも動かないんだ……ねぇ、母さん！

セエレ　母さん、キスしたげる。だから起きて。早く。

セエレ　母さん？　どうしたの？　お返事してよ。
（不安）眠っちゃったの？　ねえ、起きてってば。

セエレ　母さん、僕だけ愛してくれてたんでしょう？
（媚びる）
（泣く）僕だけ……僕……だけ……。

12—04　MV　隠れ里・奥地

草木は生えておらず、小さめの岩だけがゴロゴロ置いてある。

カイムとドラゴンがやって来ると、地面（画面）が揺れる。

SE：ずしんずしんと重たい足音

ゴーレムとその掌に乗ったセエレが登場。

セエレ　この村には誰もいないよ……
父さんも母さんももう居ないよ。

12―04　EA　隠れ里・奥地

ドラゴン　『ゴーレム、おぬしが岩に仕掛けをして
我々を導いたのだな？』

ドラゴンはセエレを見る。

セエレがゴーレムの掌から飛び降りて、カイムにまとわりつく。
ゴーレムもカイムにつめよる。（カイム逃げ場ナシ）

セエレ（必死に）　天使の教会ってトコロに行くの？
連れてって！　僕、行かなきゃ！
妹がさらわれたままなんだ。

ドラゴン（呆れて）　『こんな幼な子と契約したか？　ゴーレムよ……。』

ゴーレム　『セエレ、ヒトリ。チイサイ。ヨワイ。
ココニイテハ、キケン……。ツレテ、イク……。』

セエレ（無邪気に）　ゴーレムに、僕の〝時間〟をあげたの。

そしたら、友達になってくれるって言うから……。

ドラゴン　『……ゴーレムに時間を渡すとはどういうことか、
おぬし、わかっておるのか？
周りの人間が寿命で死んでいくなか、おぬしひとり
老けも死にもせず、一生そのままの姿ぞ？』

セエレ
（ひるむ）　ひ、ひとりじゃないもん。ゴーレムがいる！
（得意げ）　それに……僕は〝ちいさい勇者さま〟になったんだ。
このお話知ってる？
僕は母さんから教えてもらったの。

ドラゴン
（忌々しい）　『また神話か！　……人間はすぐに現実から目を
逸らし、絵空事へ逃避する……あまりに弱い……』

カイムは子供が明らかに苦手。うざったそうにしている。

ゴーレム
（セエレを励ます）　『ゴーゴゴーッ』

ドラゴン
（意外）　『ゴーレムにも情けはあるのだな』

カイムとドラゴンは顔を見合わせる。（もう連れていくしかあるまい、と諦めた）

ドラゴン
（諦めて）　『では、ゆくか……帝国領土へ』

【13　偽りの平和】

13-01　MV

帝国領土・丘陵地帯

SE：かすかな風音

夜明け前の暗い平原。丘陵になっている。
ときどき何かがキラキラと光る。
（※まだ視界が悪い。風の波打つ草原、と見えなくもないが……）
地平線の彼方から朝日がのぼる。
と、丘陵も照らし出され、荒野にうごめいていたのが、連合軍であることがわかる。
朝日が徐々に丘陵すべてを照らし出す。
連合軍の先には、帝国軍が待ち受けている。
一瞬の静寂の後、連合軍の先頭にいた男の拳が突き上がる。

連合軍隊長　進めーー！

SE：雄叫び、鎧のぶつかり合う音

隊長のひとことで連合軍に雄叫びが上がる。
進み出す連合軍。

SE：サイクロプスの鳴き声（あれば）

帝国軍の後方から巨大なサイクロプスが現れる。

13―03　GA　帝国領土（上空）

（ミッション13―03）

広大な草原を飛翔するドラゴン。
眼下にはたくさんの敵・味方兵士達。
目前にはサイクロプス。
味方をかばいつつ、サイクロプスをすべて倒す。
残った味方は後々の戦いの援軍となりうるので、
見捨てないほうがいい。

〈会話が可能ならば〉
・フリアエはどこに？

１３―０３　ＧＧ　帝国領土（地上）

（ミッション１３―０３）
丘陵で帝国軍と決戦。

１３―０４　ＥＡ　帝国領土

カイムが率先して拳を突き上げ、勝ち名乗り。
歓声。
しかし、地面をみるみる影が覆っていく。
風で草がなびく。
全員が空を見上げる。

連合軍隊長

なんだ⁉

下は草原がズーっと続いており、左下の連合軍から右上の帝国軍までカメラが高速移動。

帝国軍の死骸が転がる中、生き残った人々がひざまずいて空を見上げている。

連合軍のほうに落ちる影。

裁きがきたぞ！

帝国軍の歓声が上がる。拳を突き上げている。

SE：歓声（帝国軍）

帝国軍兵士

帝国領土（空から地面へ）

13—06 MV

目に見えぬものが、地面に次々と激突。
地面（画面）が激しく揺れる。
SE：隕石の落下、激突音
見えない塊に踏みつぶされ、次々と弾き飛ばされる連合軍。
SE：地鳴り、地面が割れる音
SE：悲鳴、泣き声
地割れが起こり、そこに飲み込まれる2次災害も発生。
阿鼻叫喚の図。
一部始終をドラゴンに乗って、上空から眺めているカイムとヴェルドレ。

13—07EA

帝国領土・丘陵地帯

時間経過。煙は晴れている。死体はそのまま。
カイムが背を向けたヴェルドレ（錯乱気味）に詰め寄っている。

ヴェルドレ
（混乱）
わ、私にも何が何やら……まさか……
最後の封印が……解かれた？

ドラゴン
『女神の血がすでに流れたと？』

カイムは目を剥いて、ヴェルドレを突き飛ばす。
ヴェルドレは尻餅をつく。
そのまま背を向けて去ろうとしたカイムに、
ヴェルドレは尻餅をついたままの姿勢で狂ったように叫ぶ。

ヴェルドレ
（ヒステリー）
そうだ！
この惨状は天からの戒め、人類への呪いだ！
女神は天に捧げられたに違いない！

ドラゴン
（諭す）

カイムは立ち止まり、恐ろしい勢いで引き返してくると
剣の柄でヴェルドレを殴り飛ばす。
（狂気に満ちた凶暴さで）
転がるヴェルドレ。
ドラゴンはカイムを見る。

『真実は天のみぞ知る……
そこに、道があるのならばな』

カイムがうなずき、天を指し示す。

【14　帝国の脅威】

14—01　GG

空中要塞・下（地上）

（ミッション14—01）

朝日はいつしか雲に隠されていた。
気の滅入るような曇り空をまっすぐ急スピードでのぼる。
分厚い雲に覆われた天を目指す。
と、上から雲を突き破って急降下してくるビホルダー（仮）。
スピードをゆるめず、うまくかわしていく。
（スピードがゆるまると、敵に捕まったり、風にあおられて上昇出来なくなったりとハンデがついてしまう）

14—01　GA

空中要塞・下（地上）

（ミッション14—01）

空中要塞を目指して上昇。ビホルダーを攻撃。

14－02　AC　空中要塞・下

ドラゴン

SE：風がごうごう唸っている音

曇り空のぶあつい雲が途切れる。（※下から突き抜けてきた感じで）
やや雲が薄くなりつつも、相変わらずどんよりした空に、巨大な
要塞が浮かんでいる。（※ルネ・マグリッドの世界のように）

建物の中は近代的。柱1本とっても
木や石という自然物ではなく、明らかに人工的な建造物。
ガラス張りの大きな窓から、中にいる人影が見える。
群衆が集っている。

ドラゴンがさらに近づこうとしたところ、下のぶあつい雲の隙間から
気流がふきあがる。
ドラゴンは気流の壁にはばまれ、錐もみ状態になる。

『これ以上は無理か』

＊　＊　＊

○武将が全員揃っている＆2週目以降の場合……（次のシーンが続きます）

14—12　AC　空中要塞・下

カイムとドラゴンをテレパシー（オーラ）が覆う。

ドラゴン（受信）
『レオナールからだ。……なんと……！』

ドラゴンは空中で向きを変える。（下降する準備）

ドラゴン（いらいらと）
『女神は海の上だ。海上要塞におる。
……つまらぬ小細工をしおってからに！』

【15　黒きドラゴン】

15－01　EA

空中要塞・祭壇前（表）

60年代に作られたSF映画に出てくる宇宙船内のような装飾。
（やたらとピカピカしている。しかし、プラスチックケースのような中にある灯りはろうそく、といったように進歩しきれていない）
祭壇があつらえてあり、毒々しいほど赤い花が飾られている。
そこに眠っているフリアエの顔は白い。が、しっかり目を開けている。
司教（マナ）がフリアエに寄り添っているが、姿は影になって見えない。

イウヴァルトが司教に歩み寄る。

イウヴァルト
（恭しく）

司教！　カイムは、私におまかせを……。

無表情だったフリアエがハッとして起きあがる。

イウヴァルトはフリアエのほうを向き、すぐにまた司教に目を戻す。

マナ（男声）
（重々しく）　天使を飛ばせてはならない。

イウヴァルトは深々と礼をして歩き去る。
去り際、フリアエの頬に手を伸ばす。フリアエ、震える。

イウヴァルト
（歌うように）　俺は強い。俺は愛を知っている。天使への愛。
（錯乱）　君への愛。……君は……誰？

フリアエ
（怯えて）　イウヴァルト？

イウヴァルトは頭を振って、去っていく。（錯乱）

15—02　GA

空中要塞・下（上空）

（ミッション15—02）

雲を突き破って、ブラックドラゴンが急降下。

ドッグレース。（追いつ追われつ）

ブラックドラゴンのほうが飛翔（上昇）能力に優れている。

これを追っていけると、ちからではドラゴンが勝る。

イウヴァルトとブラックドラゴンを倒す（動きを封じる）。

〈会話が可能ならば〉

・イウヴァルトはカイムをもはや認識しない。

＊　＊　＊

○時間内にブラックドラゴンを倒して、高々度に到達したら……（次のシーンが続きます）

15—03　AC

空中要塞・下

暗雲気流が一瞬取り除かれる。（台風の目のような感じ）
ちらりと覗く太陽。

イウヴァルト
天使は飛ばせん！

イウヴァルトを乗せたブラックドラゴンがそこを目指して
昇っていく。

ドラゴン
『今ぞ！』

ドラゴンもカイムをのせて、続く。
分厚い雲を突き抜け、一気に空中要塞内部へと侵入。

【16　定め】

16−01　GA

空中要塞手前（上空）

（ミッション16−01）

城の周り（外堀）を壊してまわるイメージ。

長距離砲がたえず狙っているので、急旋回、急降下でうまくかわす。

長距離砲が設置されている場所がわかれば、そこを集中的に攻撃して先につぶしてしまうのも吉。

近距離砲台の位置や向きから、ハッチの場所を推定できる。

内部へつながるハッチを破壊する

（元ミッション16−02）

ハッチが開くと、次は人海戦術。たくさんの護衛部隊が控えている。

彼らを皆殺しにする。

ロボットのように痛みも感じず、襲ってくる部隊（洗脳されているので）。

血は激しく飛ぶが、この戦いで人間らしい悲鳴は上がらない。

黙々と首がもげ、腕がちぎれる。

〈会話が可能ならば〉

・カイムが戦いの虚しさにほんの少し目覚める

・カイムがドラゴンへの思いやりをほんの少し見せる

16−03　GG

空中要塞・内部（地上）

（ミッション16−03）

しょせん多勢に無勢。確実にフリアエを助けるために、まずこの建物をパニックに陥らせようと考える。

そこで空中要塞の心臓部である動力機関を止めようと、エンジン部屋を探しまわる。

大騒ぎになるとフリアエが殺されてしまう可能性があるので、エンジン部屋の中に入ると、巨大な水晶みたいなものが設置されている。周りを囲った司祭達の祈り（マントラ）により結界が張られていた。

結界を破るために、まず司祭達を殺し、結界がなくなってから

エンジン（水晶）を破壊する。

〈会話が可能ならば〉

・女神が近くにいること

16-04 EA

空中要塞・祭壇前（裏）

【15】に出てくる「祭壇前」と同じ場所だが、カイム達が潜入するのは裏側から。よって、視界も裏側からの眺めとなる。

フリアエはすでにカラフルなプラスチック製の柱に張り付けられている。（背後から見る感じで）

カイムも棒立ち。

フリアエの体からどろどろ血が流れ落ちる。

カイムは膝をつく。頭を抱え、天を仰ぎ、

声にならない叫びを全身から絞り出す。

その時、フリアエの影から子供（マナ）が初めて姿を現わす。

（カイム達には背中を見せた状態で）

マナはぶつぶつとしゃがれ声でつぶやきながら、

祭壇にあった赤い花をフリアエの血痕の上に撒いている。

マナ（子供声→男声に変化）

天使を語ってはならない。
天使を描いてはならない。
天使を書いてはならない。
天使を彫ってはならない。
天使を歌ってはならない。
天使の名を呼んではならない。

ドラゴンのテレパシーが入る。（表現手段検討）

ドラゴン（切迫して）

『カイム！　最終封印が解かれたのだな？
早く外に出てこい！　卵が生まれるぞ！』

カイムは動けずにいる。

ドラゴン

『カーイム！　しっかりしろ‼
次の手を打たねば世界が滅びるのだぞ？』
『おぬしの妹が耐えて守ってきたことが
すべて無駄になるのだぞ？』
『カイム⁉』

ようやく、カイムは起きあがる。

【17 決意】

17-01 MV

空中要塞・祭壇前（表）

祭壇前の空間（4畳くらい）はロープがはられ、群衆が近づけないようになっている。
フリアエは変わった形をしたプラスチックの柱に張り付けになっている。
（※縛り付けられたりはしていません。フリアエが自分でとれる体勢です）
正面からのアップ。胸に突き刺さった短剣が見える。
血が床にぼたぼたと垂れてゆく。

マナがフリアエの足元にかがんで（祈っているようにも見えるポーズ）、赤い花びらをポケットから出しては、まいている。

SE：群衆のざわめき

群衆は女神が死んだことに気付き、ざわめきだす。

「ついに」とか「審判の時だ」とか。

イウヴァルトが前に出てくる。
ロープを越えて、さらに祭壇前に歩み出る。
マナがイウヴァルトの気配を感じて身を起こす。無邪気な微笑み。
床は赤い血と花でいっぱいだ。
イウヴァルトの赤く濁った目がマナ、ついで、フリアエの死骸をとらえる。
開く瞳孔。赤みが消える。（※洗脳が解け、正気が戻った表現です）

イウヴァルト（正気の恐怖）　フリアエ……

イウヴァルトはマナにすがりつく。

イウヴァルト（必死に）　フリアエをどうしたっ⁉

マナはおしゃまな女の子のように、にっこり微笑む。

マナ（子供声）（無邪気に）

封印は解けた。もういらない。
ふふふふふふ…

マナの目が赤く光り、超自然的なちからでイウヴァルトは弾き飛ばされる。（※電気に触れたようにバチっと弾かれる感じ）
そのはずみでイウヴァルトがフリアエにぶつかり、
フリアエの衣服（腰から下あたり）がやぶける。
黒いドレスの下から白い下着が見える。
マナは衣を翻して、その場でくるくる回り続ける。

マナ（子供声）（楽しそうに）

ふふふふふふ…
天使が笑った。天使は笑うよ。ラララララ。

イウヴァルトはフリアエを抱き寄せる。

17—01 EA　空中要塞・祭壇前（表）

イウヴァルト　フリアエ！　フリアエ！　俺は……
君の幸せを思って……違う！　違う！
俺は君に歌すら贈れなかった!!

（はた、と）　では俺の幸せのため？　……俺が、君を、殺した？

イウヴァルトは絶叫する。
後ろではマナがくるくる回り続けている。

マナ（男声）
（無感情）　ラララララ、天使、回る回る、笑う笑う、ララ、天使。

群衆

（マナと一緒に）

ラララララララララ、ラララララ、ララ、天使、回る回る。

群衆の声も一体化。不気味な眺め。

17—02　MV

空中要塞・上空

曇り　青空のもと、ブラックドラゴンがゆっくり旋回している。

ブラックドラゴンにまたがったイウヴァルト。

しっかりとフリアエの亡骸を抱いている。

血で汚れるのも気にせず、頬を寄せる。

イウヴァルト

（悲しんで）

もう邪魔はいない……。

フリアエ……。

イウヴァルトは妙な充足感と罪悪感で複雑な表情。

亡骸にキス。

やがてゆっくり目をひらく。その目には次の目的を見つけたちから強さがある。目が血走っている。

イウヴァルト
（決然と）
奇跡を……女神の復活を！

17—03　GA
空中要塞・下（上空）

（ミッション17—03）
浮かぶ城の下に、ドラゴンとカイムがスタンバイしている。
赤い花びらが雪のように舞い落ちてくる。
カイムとドラゴンは封印が解けた（フリアエが死んだ）ことを悟ってうなだれる。
マナが飛び出してくる。椅子に座ったまま飛んでいる。
帝都の方角へ飛び去る。

「椅子」の飛行機雲（のような軌跡）から精霊達が実体化する。

サイクロプスも現れ、カイム達の前にゴーストと共に立ちふさがる。
まずはゴースト達を倒す。（彼らにはドラゴンの火など、超自然的な攻撃が効くでしょう）
たまに、突風（暗雲気流）が吹くので体勢を崩さないよう気をつけなくてはならない。

〈会話が可能ならば〉
・カイムが自分の復讐心のためだけに戦っていること
・封印が解けたせいで、この世にいないはずの精霊が現れたこと
・精霊をあやつるのは、あの集落でとらえられた哀れなエルフ達
・エルフを殺さないと、精霊はいなくならないこと（虚しい）
・ドラゴンがカイムのやりきれなさに初めて共感を示す
・マナが〝再生の卵〟を目指して飛んでいったこと。
・マナがセエレの双子の妹であること。

（元ミッション17―04）
取り巻きのゴースト達がいなくなったところで、高度を下げふたたびサイクロプスと戦う。今度はカイムの物理攻撃（剣）が

役に立つ。※こんな感じに、敵によって攻撃を変えたりするのも良いかと。
たまに、上から雷が落ちてきたりする。

17―05　AC　空中要塞・下〜地上

上空に、ブラックドラゴンが現れ、帝都のほうへ飛んでいく。
低空にいたカイムとドラゴンも慌てて追いかけ、飛翔する。

ヴェルドレ（通信）　やめるのだ、カイム！
もう封印は解かれてしまった。
これ以上の戦闘は無意味だ‼

地上では先ほどの裁きの傷痕が残り、誰もが絶望的な気持ちでいる。

＊　＊　＊

○時間内にブラックドラゴンを追いかけた場合……（次のシーンが続きます）

17－06 AC　帝都周辺・上空

天気は悪い。鉛色の空、突風にあおられながら
分厚い雲をぬって飛んでいる。
時々、遠く（空中要塞の方向）に雷光が見える。
前を飛ぶは、ブラックドラゴン。
背にはフリアエの死骸を抱いたイウヴァルト。

ドラゴン　『やつも帝都へ……？
目的はやはり〝再生の卵〟か？』

ドラゴンはブラックドラゴンの後を追う形になる。

【18　人ならざるもの】

18−01　GA

帝都周辺（上空）

〈ミッション18−01〉

帝都近辺は地上絵（ナスカ風）が描かれている。
ブラックドラゴンも飛んでいるが、その前に司教マナが現れる。
マナを庇うように、イフリートが出現。
火炎竜巻をうまくよけながら、ダメージをこつこつ与えて倒す。

〈会話が可能ならば〉
・「卵に惑わされるな」「おまえの敵はマナだ」「卵に入ったからといって、世界の危機が終わるわけじゃない」等。

18−02　AC

帝都・地上

帝都とは名ばかりの廃都（長い間海底に沈んでいたかのような

侵食具合）。砂漠の神殿と似た作りの神殿が見える（中に祭壇あり）。
都の中央にある広い道が神殿に続いている。
が、その地面はすべて苔むしている。（やはり、海底都市か？）
ドラゴンから降りたカイムが2、3歩進むと、広い道を影がおおう。
ドラゴンが首をもたげて空を見る。

ドラゴン
（畏怖して）
『伝説が来おった……』

おびただしい数のエンシェント・ドラゴンが旋回　飛行中（一方向）。
彼らが叫ぶと、地響きがする。廃都は今にもすべてが崩れそう。

飛行中のドラゴンが進まなくなる。
カイムが蹴っ飛ばしても、叩いても、動かない。

ドラゴン
（苦しげにうめく）
『これ以上……進めぬ』

ドラゴン
（畏怖）

ドラゴン
（慌てる）
（照れて）

カイムが空を指差し、じりじり焦る。

『エンシェント・ドラゴン……
聖なるドラゴンと戦うなど、
我にはとても……』

カイムはドラゴンの背をさする。
おもむろにドラゴンを抱きしめる。

『は、離れろ！
暖めてどうなるものでも……
まったく、どうかしておる！』

ドラゴンが体をごきごき動かす。咆吼する。

ドラゴン（気を取り直して）『伝説も神も善悪も関係ない、
酔狂な馬鹿者と契約した身を
恨むことにしようぞ』

ドラゴン、進み出す。

18―05　GA　帝都（上空）

（ミッション18―05）
曇天の中、強大なエンシェントドラゴンと戦う。
こまわりが効くドラゴンはすばやさを武器に挑む。
エンシェントドラゴンの吐息をかぶると、ドラゴンは凍りつき
動きがとれなくなるので、急旋回、急降下で避けること。

〈会話が可能ならば〉
・ドラゴンが成長していることをカイムが誉める。（友情）

・生き残るためには、卵に入るのではなく、マナを倒すこと。
そしてふたたび封印を施すことが最良の道、とドラゴンは教える。

18—06 AC

帝都・地上

戦闘終了後。

ドラゴン

『……礼を言うぞ、カイム。
我は今、我自身を越えられた気がする』

※ここで、ドラゴンは初めて「人間」を認めます。
↓ラストの大決断への布石。

【19　閉じた魂】

19—01　GA

帝都・上空(上空)

(ミッション19—01)

帝都上空で戦闘。

19—01　GG

帝都・地上(地上)

(ミッション19—01)

帝都地上で戦闘。神殿を目指す。

19—02　GG

帝都・祭壇内部(地上)

(ミッション19—02)

神殿入り口から入ると、ずいぶん奥に祭壇が設けられている。
壁には歴代の女神と神官長の肖像画が掛けられている。

19—02 MV

帝都・祭壇内部

柱などにひび割れはあるものの、壁や床にかけられた布は真新しい色彩を放っている。特に赤が目に飛び込んでくる。

絨毯の上には砂で絵が描かれている。

儀式用の大きな風船が宙に何個も浮かんで、視界を遮る。

マナが柱から柱へと逃げ込みつつ、祭壇へ向かってジグザグに走っていく。

マナが合図するたび、肖像画からゴーストが現れる。

ゴーストの動きには一定の法則がある。

放っておくと、ふたたび肖像画の中へ消えてしまう。

うまくかわすか?真正面から戦うか?プレイヤー次第。

マナを見失わないようにだけ気をつけて、追いつめていく。

マナが祭壇に着く前に、捕まえて倒すこと。

※ムービーとのつながりの関係上、ここでマナはばったり倒れてはいけない。

（後ずさる余裕があるように）

〈会話が可能ならば〉

・マナの断末魔「お母さん！」

祭壇はゴテゴテと飾り付けられた2段ベッドのようなもの。
よく見るとちゃちい。原色の色遣いといい、子供のおもちゃのようだ。
砂絵が供えられ、マントラを書いたお札がベタベタ貼ってある。
ろうそくの光のせいで、カイム、マナ、ヴェルドレ、ドラゴンの影が長く伸びている。

マナが咳き込みながら後ずさっていく。一見、弱々しい子供。
ドラゴンに付き添われ、包帯だらけのヴェルドレが神殿入り口に登場。
赤い絨毯の上を歩き、まっすぐ祭壇までやってくる。

ヴェルドレ　神官長としての勤めを果たさせてくれぬか？

カイムはうなずき、ヴェルドレを通す。
ヴェルドレは杖を掲げ、呪文を唱え、封印をほどこそうとする。

ヴェルドレ
(呪文)　ク・アボーイル・レヴェ・ヴォーレー・セレ・ヴェーイーレー……。

（※繰り返し）

マナが苦しみ出す。

マナ（子供声）　ぐげげげ……

宙に浮かんでいた紙風船がいっせいに割れ、中から出てきたオーラが、
マナの体の中にシュウシュウ入っていく。

マナ（男声）　『人間どもめ……まだ生き延びようとするのか！
（一喝）　……醜い……醜いぞ!!』

マナ（男声）　ぐぎゃあ　おのれ…

カイムがとっさにヴェルドレをかばって後ろにやる。
マナの体は巨体へと変貌。
マナの巨大化にともない、祭壇の天井が壊れてしまう。

19—03 GA

帝都・上空（上空）

（ミッション19—03）
風船やハスの花びらが散らばる中（極楽浄土のイメージ）、
ドラゴンに乗って、巨体の周りを攻める。
巨体の司教はこまわりが効かないので、すばやく飛び回るのがコツ。

〈会話が可能ならば〉
・ドラゴンの励まし
『我との約束を覚えておるか？　……絶対に死ぬな！』

19—04 EA

帝都・祭壇内部

マナの体はまた普通の子供に戻っている。
むくりと起きあがるマナ。
取り囲むドラゴンとカイム。ヴェルドレは背後で封印作業。

マナ（子供声）　……ふふ。ふふふふ。あはははは！
（ヒステリックに）　あなた達、ほんっとバカね！
（大人びて）　せっかくの再生の好機を逃したりして。

マナは封印作業中のヴェルドレにしがみつく。

マナ（子供声）　神はすべて見ているのよ！
（必死に説得）　最後の審判なのよ！
わたし達は変われるのよ！
何も不安はないの！　愛されているんだから！

ヴェルドレが振り払うと、マナは簡単に転がる。
その頭上へカイムが剣をふりかざす。
マナはあたりを見回し、自分の信仰が途切れたことを知る。
残る逃げ道は、死のみ。
マナはガクガク震えながら、胸をそらす。

マナ（子供声）
（静かに）……憎いのね？　わたしが？
（余裕たっぷり）……殺してもいいよ。

カイムは動かない。マナが一歩前に出る。
マナはスキップでカイムの周りを回る。

マナ（子供声）
（歌うように）おにいーさん！　殺しなさいな。
（狂ってる）遠慮なんかはいらないわ。ぐっさりぐっさり
殺してよ、ほら、殺してよ。おにーさん！

わたし平気なんだから。だって、愛されてるの。
神に愛される子供は、お母さんにも愛されるはず。
ぜったい平気なの。愛されてるの。だから！

カイムは剣をおろす。
マナはわっと泣き伏し、しゃがみこむ。

マナ（子供声）
（泣きながら）
殺せよ！　おら！　殺さねえと、わたし……
わたし……これからどうすればいいんでしょうか？
憎むくらいなら殺してください。一気に殺してください。
憎まないで、憎まないで、お母さん！　わたし、死ぬから。ね？

マナは封印作業をいったん中断したヴェルドレにすがる。

マナ（子供声）
（必死に）
あなたでもいいわ。わたしを殺してください。

お願いします。殺してください。殺して。殺せー!!

ドラゴン（無慈悲に）　『カイムはおぬしを一生許さないそうだ。
やすやすと死ねると思ったら大間違いぞ。』

マナ（子供声）　ひっ！

マナがぺたんと尻餅をつく。

ドラゴン　『カイムだけではない。この世界の何千もの
魂がおまえを許さない。わかるか？
おぬしは一生憎まれるのだ』

マナ（子供声）

（狂う）　う、うふふふ……いや……やあよ。

ドラゴン　『罪の重さにもだえ、のたうちまわりながら
生きるがいい。我が言ってやろう。

（グサリと）　おぬしに、救いはあらぬ！』

マナ（子供声）

（悲鳴）　いやあああああ！

（錯乱）　おかーーさーん！
許して、許して、許して、許して……
ごめんなさい。もうしませんしませんしません。

※カイム達は気付きませんが、ここでマナは幼年期に受けた
母親からの虐待を思い出しています。
ドラゴンもカイムも、泣きじゃくるマナに背を向け、
ヴェルドレの封印作業を覗き込む。

ドラゴン
（ヴェルドレに）　『封印の適合者はおるのか？』

ヴェルドレ　一刻も早く、新しい女神を探し当てねば……。

ヴェルドレは封印作業をやめて、立ち上がる。
ドラゴンに一礼。

ヴェルドレ　また誰かを犠牲にせねばなりません。
（自嘲）　私は……さしずめ死刑執行人です。

ドラゴン　『……』

ドラゴンはカイムの元に歩み寄る。

ドラゴン（静かに）『また進めぬようになった。
……暖めてくれぬか？』

カイムはわけがわからない。肩を竦ませながら、
ドラゴンを抱き、さする。
ドラゴンは体をそっと離す。

ドラゴン『……もう、だいじょうぶだ』

ドラゴンはヴェルドレへ歩み寄る。

ドラゴン（凛として）『我を封印に使うがよい。
精神力、生命力、すべてにおいて
人間の比ではないぞ。』

カイムとヴェルドレは衝撃を受ける。

ヴェルドレ（衝撃）　そんなことが⁉
……よろしいのですか？

ドラゴンはちらりとカイムを見るが、すぐにヴェルドレを向く。

ドラゴン　『……我の気が変わらぬうちに
済ませたほうが良い。』

ヴェルドレは深々と一礼して、封印の儀式の準備。
2段ベッドのような祭壇に、ドラゴンが乗せられる。
カイムがよろよろと近寄るが、ドラゴンはそちらを見ない。

19—05　MV　帝都・祭壇内部

祭壇の天井は壊れて、空が覗いている。(青空)
祭壇はゴテゴテと飾り付けられた2段ベッドのようなもの。
マナとの戦闘で壊れたところも多い。

ドラゴンがその祭壇に横たわっている。ヴェルドレがかたわらにいる。
カイムが見守るなか、再封印の儀式がはじまる。
ヴェルドレがモゴモゴと不明瞭な経文をつぶやきながら、ドラゴンの身体にお札を貼り付けていく。

ヴェルドレ
(呪文)

ク・アボーイル・レヴェ・ヴォーレー・セレ・ヴェーイーレー……。
(※繰り返し)

※呪文の合間に「ハッ」と気合いを込める掛け声も要。

お札の上で、ヴェルドレが杖を振ると、
お札に書いてあった文字がドラゴンの身体に焼き付けられる。

SE：焼きゴテを当てられたような音

SE：ドラゴンのおたけび

飛び散る血と体液。

ドラゴンは苦痛に体をよじらせる。

カイムは自分がその痛みを分かち合っているかのように、歯を食いしばる。

ヴェルドレは一礼して下がる。ドラゴンはすぐには起きあがれない。

ドラゴンの身体は経文だらけとなり、その文字はそのまま傷となっている。（焼きゴテを押しつけられたような・・・）

駆け寄るカイム。寄り添い、今までとは違ってやさしく抱く。

カイムの涙がドラゴンに落ちる。

ドラゴンの目がぎょろりと開く。（血走っている）

ドラゴン
（息もたえだえに）

『おぬしの……涙……

ドラゴン

ドラゴン

ドラゴン

初めてみる……な……』

ドラゴンが少し動くたび、血が吹き出る。口からも傷からも。
ドラゴンは顔をしかめながら起きあがる。血だまりが出来る。
ドラゴンはカイムを見てうなずく。

『……覚えておいて
……もらいたいこと……が……ある。』

カイムが首をかしげる。

『アンヘル……それが我の名だ。』

『…人間に名のるのは最初で…最後だ。』

カイムは別れを予期して、うつむく。

ドラゴン
『さらば……だ、馬鹿……者……』

ドラゴンは飛び立っていく。
みんなからやや離れた位置でマナはへたりこみ、泣きつづけている。
ヴェルドレは封印をなぞり、祈りのポーズをとりかけて止める。

ヴェルドレ
（訴え）
神よ……
それでもあなたは、我々に生きろとおっしゃるか？

Ａ路　ＥＮＤ

【38 悪魔の翼】

38—01 GA　帝都周辺（上空）

（ミッション38—01）

あらゆる帝都上空でブラックドラゴンに乗るイウヴァルトと戦闘。

38—01 EA　帝都周辺・卵周り

※【17】でブラックドラゴンの追撃を優先した場合。

あらゆる種族があらそう中、イウヴァルトはフリアエを抱いて立っている。
カイムとドラゴンが歩み寄ると、振り返る。一瞬、先生にいたずらを
見つかった子供のように萎縮する。（カイムが恐い）

イウヴァルト（子供口調）　フリアエが死んだのは……僕のせいじゃない。

僕、悪くないもん！　天使の教会が……
司教が……僕をだまして……。

ドラゴン
『おぬし、何をするつもりだ？』

イヴァルト
（大人に戻る）
僕……いや、俺……
俺は……フリアエを生き返らせる！
〝再生の卵〟で奇跡を起こすんだ!!

ドラゴン
（無慈悲に）
『起こらぬことを奇跡と呼ぶ。
無駄ぞ』

イヴァルト
（子供口調）
うそだっ！　信じないよっ!!

僕、強いんだ。カイム……そうだよね？
僕はやれる。だって神様がついてるんだもん。

ドラゴン　『おぬし、世界のこれからについては
考えぬのか？』

イウヴァルト
（大人に戻る）　俺は……フリアエさえいればいい。
フリアエのいない世界など……
とっとと潰れたらいいのだ。（狂気の笑い）

イウヴァルトが肩をゆすって大笑い。（狂気）
ドラゴンはカイムを見て、首を振る。（諦め）

ドラゴン
（処置ナシ）　『おぼれゆく者は、海の深さに気をとられ

広さを知らぬ。』

カイムがイウヴァルトに近づく。テレパシーで話しかける。
イウヴァルトはフリアエの死体を庇う。

イウヴァルト
（狂気）

〝フリアエを離せ〟……だと？
そうか。おまえのフリアエへの愛など
しょせんその程度なんだな！
じゃあ、僕の勝ちだ。ははは、あはははは！

カイム、無念の表情。イウヴァルトとの決別は決定的だ。
逃げ去るイウヴァルトを追う。戦闘へ。

38—02　GA

帝都周辺（上空）

（ミッション38—02）

下に地上絵、卵、それを奪い合う種族。
上空では、人間同士が敵味方に別れて争っている。（帝国軍vs連合軍）
芋洗いの状態である空中を、敵とぶつからぬよううまく操縦しながら
ブラックドラゴンを探す。
近づかないと識別出来ず、ハズレるとその敵が襲いかかってくる。
手早く襲撃するか、一目散に逃げるかはプレイヤー次第。
時間の浪費を避けよう。

〈セリフ〉
※再生の卵はあやしい。（トラップであるとドラゴンが明言）
　ここで、ドラゴンに世界の仕組みをバラさせることで、後の決闘につながらせる。
※卵の前では全種族が争うことになる。（でもドラゴンは別）
※封印が解かれたことで、卵は次から次へと生まれている。（無尽蔵ではないが）
※人間ばかり攻撃されているような……？
※イウヴァルトとの決別。イウヴァルトの弱さ、フリアエとの関係について。
※卵についての説明（あらゆる種族が奪い合ってるぞ！）
※イウヴァルトがブラックドラゴンに乗っていること。

＊　＊　＊

○一定時間内にブラックドラゴンを倒せたら……（次のシーンが続きます）

38—03　EA　帝都周辺・卵周り

イウヴァルトが死のうとしている。
カイムとドラゴンが見守る。
イウヴァルトの横にはフリアエの死体。

イウヴァルト
（瀕死）
カイム……お願いだ。
俺をフリアエと一緒に……逝かしてくれ。
頼……む。

カイムはうなずく。イウヴァルトはホッとしたようにご臨終。

イウヴァルト

（恍惚）　あぁ……しあわせだ……。

寄り添うように眠るイウヴァルトとフリアエは恋人同士そのもの。

その時、咆吼と激しい羽ばたき音。

地面に影が覆う。（天気悪いながらも、いちだんと暗くなる）

顔を上げるカイムとドラゴン。

ドラゴン
（予感）　『祭壇へ人間が潜り込んだようだな。』

カイムの問い掛け（テレパシーオーラで示します）に
ドラゴンはうなずく。

ドラゴン
（悟りの境地）　『あぁ……アイツに違いない。
いよいよか……。』

38—04 EA

帝都・祭壇内部

神殿入り口から入ると、ずいぶん奥に祭壇が設けられている。
壁には歴代の女神と神官長の肖像画が掛けられている。
柱などにひび割れがある。すっかりひなびた感じ。
二段ベッドのような祭壇の上に大きな卵が鎮座している。
刻々と姿を変えていく卵の前ににじりよっていくマナ。

マナ（子供声）
（うっとり）
もうすぐ。もうすぐ……

SE：ドラゴンの咆吼（大勢）

マナはその声に身を起こして卵から一時離れ、
ふらふら入り口（画面外）へと向かう。（夢遊病患者のように）

マナ（子供声）

（つぶやく）　ドラゴン……神の使い……

私のしもべ達よ……

マナが画面外に出たところで、ふたたび……

SE：ドラゴンの凶暴な咆吼（大勢）

マナ（子供声）

（断末魔）　ひぃっ！　お母さーーん！

SE：牙が肉と骨を噛みちぎる「グチャグチャ」とした音。

マナはドラゴンに食い殺される。

フェイドアウト。

【39 邂逅】

39-01 MV

帝都周辺・卵周り

帝都近辺は地上絵（ナスカ風）が描かれている。
ひらけた場所。地平線が瓦礫でうずもれているような感じ。
大きな卵らしきものが一定の間隔をおいて出現している。（※複数）
そのうちの1個の卵のもとへイウヴァルトが近づく。
イウヴァルトがフリアエの死体を卵にくっつける。

SE：ぐちゃっ（ゼリーがつぶれる音）

卵の殻はやわらかくゼリー状。意志を持っているかのように
どろりとゆがみ、フリアエを飲み込む。

フリアエを飲み込むと、半透明のゼリー状だった卵がみるみる
実体（殻）を持つ。

早回しのように卵は固く、大きく成長していく。
成長が止まると、ふたたび卵の殻が溶け出す。
半透明のゼリーにもどると、女神（※上半身のみ）がうにょんと
吐き出されてくる。

イウヴァルトが微笑み、フリアエに手を差し伸べる。

イウヴァルト
（ほっとして）
フリアエ……戻ってきたんだな。

突然、イウヴァルトが吐血する。

イウヴァルト
（吐血）
!?

おそるおそる下を見ると、腹にフリアエの手が突き刺さっている。
イウヴァルトの目が見開かれる。

出てきたフリアエの下半身は人間以外のものへと変化している。
無表情なフリアエの顔にイウヴァルトの鮮血が飛び散る。
イウヴァルトは無惨な死体として、フリアエの足元に転がる。
フリアエ（もはや神の化身）は次なる「人間」を求めて辺りを見回す。

フリアエ
（規格外の咆吼）
『×#$%&×……』

39—02　GA
帝都周辺（上空）

（ミッション39—02）
下に地上絵、卵、それを奪い合う種族。
上空では、人間同士が敵味方に別れて争っている。（帝国軍vs連合軍）
芋洗いの状態である空中を、形を変えたフリアエが優雅に飛び回る。
彼女の羽根に触れた者はみな、火だるまになって墜ちていく。
味方が火だるまにならないようかばいつつ、自分もよけつつ、
女神の正面にまわりこんでは攻撃。地道にHPを減らす。

味方が残っていれば、自分の援護をおこなってくれる。

〈会話が可能ならば〉

・ドラゴンはカイムに勝ち目のないことを知りつつ、励ます。

『気張るな。どうあがいても、しょせん地獄よ。』等。

・イウヴァルトは幸せだったのか？

・フリアエへの無念。

39-04 MV 帝都周辺・卵周り

女神の大暴れにより、ほとんどの者が焼け死んだ。

卵もすべて割れ、用をなさない。

女神も息絶えて横たわっている。

カイムはかつて妹であった女神の身体を抱き上げ、眺めのいい場所へと歩いていく。

途中、転がる卵の殻を無造作に蹴散らしたりして。

高台となった場所から海が見える。

フリアエを抱いて、海に臨むカイム。

その表情は限りなく無に近い。何の感情も読み取れない。
空が遠くから徐々に色を変えてくる。

女神達

（笑いさざめく声）

天使のような笑い声が満ちる。
カイムは目をこらす。雲と思ったのは、浮かんでいる大量の女神。
無数のフリアエ。凧のようだ。
ドラゴンがカイムを守るように、ちょっと前に出る。
空に浮かぶフェニックスの大群が
いっせいにカイムとドラゴンに向かってくる。
何百もの火を噴く隕石のように。
大勢のフリアエを映していたカイムの瞳がゆっくり閉じられる。
イベント終了、ブラックアウト後のエンドロール前にドラゴンのセリフが出る。

ドラゴン

（重々しく）

『再生の卵など……
はじめからありはしない』
『……人間は決して赦されないのだ。』

B路　END

【59　夜空の下で】

※【38】でブラックドラゴンを倒せた場合。

59―01EA

帝都・祭壇内部

神殿入り口から入ると、ずいぶん奥に祭壇が設けられている。
壁には歴代の女神と神官長の肖像画が掛けられている。
柱などにひび割れがある。すっかりひなびた感じ。
二段ベッドのような祭壇の上に大きな卵が鎮座している。
その近くに、マナの死体が原型をとどめずに散らばっている。
カイムは卵を少し離れたところから見る。そして散らばる肉片も見る。

ドラゴン

『……ヤツは我が同胞に食い殺されたようだな。
卵を前にしたドラゴンに、人間の司教ごときの
洗脳は聞かぬ。』

カイムがテレパシーオーラを飛ばしながら剣を構えて、
整列したドラゴン達を見まわす。
ドラゴン達が一歩前に出る。
彼らからカイムを庇うようにドラゴンがカイムとドラゴン達との間に入る。

ドラゴン
（おもむろに）

『我らドラゴンの存在意義を、
人間は思いもつかないだろう。』

カイムはわけがわからない。（プレイヤーもそうでしょう）

ドラゴン
（思わせぶりに）

『赤子は水浴びを喜ぶ。
……いつまでもさせてやりたい。
しかし、季節は変わるのだ。』

ドラゴンはドラゴン達のほうを向いて宣言。

ドラゴン
（毅然と）

『カイム……我らの契約はここに終了する。』

カイムは慌てる。（どういうことだ？　契約は永遠だろ？）
ドラゴンは首を振る。

ドラゴン
（無念）

『我らの戦い……それは道理を
越えた場所にいるお方の摂理によるもの。
もはや心臓など関係ないのだ。』
『カイムよ……おぬしは深く生きすぎた。
ここまで来たからには
我は本能によっておぬしを殺さねばならぬ。』

カイムはようやくドラゴンとの一騎打ちに入ることを
納得する。（不満だけど）

ドラゴン

『許せ！』

59―02　GG

帝都・祭壇内部（地上）

（ミッション59―02）

ドラゴンとカイムの一騎打ち。

飛べないカイムはとにかくドラゴンの死角から攻める。

飛び上がられると、一気に火を食らうのでなるべく飛ばさないよう、間断なく攻撃を続けること。

〈会話が可能ならば〉

・ドラゴンはカイムに謝る。『すまぬ』

『生きたいのなら……まず我を倒せ！』

・ドラゴンが神の第一シード生物であること。

・人間が憎まれた存在であること。

・ドラゴンがカイムに特別の感情を抱いていること。（理性と本能）

・ゲーム終了前にドラゴンの死に際メッセージ

59―04　MV

帝都・祭壇内部

祭壇の前で、ドラゴンの苦しみを少しでもやわらげようと
身体をさすってやっているカイム。

ドラゴン
（苦しいが満足げ）

『……おぬし、強くなったな。』

ドラゴン臨終。
カイムは剣を構えて、祭壇にのぼり卵に近寄る。
卵の殻は（餌食の人間が来たことで）固い殻からふたたびゼリー状にもどる。
半透明のそこには、カイムの顔がゆがみながら映りこんでいる。
カイムは一気に剣を振りかぶり、卵を壊す。（※神への依存を断ち切った瞬間）
一瞬作られかけた殻が割れ、極彩色の血のようなゼリーが
どろどろと流れ出る。

SE：（OFF）ドラゴンの唸り声

神殿の外から、恐ろしい唸り声が聞こえてくる。（※ドラゴン達が集結している）
カイム絶体絶命。

SE：壁への体当たりで、建物が崩れていく音

ドラゴン達が体当たりした衝撃で神殿が揺れる。ぱらぱらと
崩れかけている壁や柱。
しかし、カイムは恐れない。それどころか、割れた卵を満足げに
見やると微笑む。（※「これが、俺の生き方だ！」とでも言いたげに）
そして、ドラゴンの死体にそっと手を合わせると、剣を振りかぶり、
長い廊下を神殿入り口に向かって走り去っていく。戦う気マンマン。
入り口からカイムが閃光の中に消えて、完。最後は静寂。

C路　END

【35　神の意志】

※【14】の分岐後です。

35—01　AC　海上・海上要塞近辺

上空を飛んでくると、下の海面に戦艦が何層か連なっている。
付近の海面には、赤い花びらがまかれている。
竹筒や潜水艦の望遠鏡のようなものが、一定時間おきに
いろいろな海面から突き出される（もぐらたたきゲームのように）。
戦艦の上に祭壇があつらえてある。ガラス張りで天井の高い
密閉された部屋。（中の装飾は空中要塞に準じる）
人影あり。
妙な音楽が大音量で流れている。（祈りの声）
祭壇から天へ向かって、光の筋のようなものが上がっていっている。
その先には空中要塞。
筋がゆらぐと、空中要塞の位置も変わる。操作しているのだろう。

カイム達は海上要塞に近づこうとするが、ある付近までくると見えないシールドに弾かれてしまう。
シールドの中は風の流れが違うので、大気の色が少し違う。

ドラゴン

『結界が張られておるな。』

35—02 GA　海上（上空）

（ミッション35—02）
もぐらたたきのように、海面からぴょこぴょこ出るモノを潰す。（これが結界のエネルギー口なので）
全部つぶせたら、結界がなくなる。（戦艦まわりの大気の色が他と変わらなくなる）

35—03GG　海上・海上要塞内（地上）

レオナール

35—04EA

海上・海上要塞内部

（ミッション35—03）
戦艦に着陸。戦艦内の装飾は普通（スタンダード）だが
普通の扉が隠されてたり、部屋だと思った扉の向こうに
階段があったりと、少し迷路じみた造りになっている。
ネクロマンサーが奇襲をかけてくる。

＊　＊　＊

○一定時間内にネクロマンサーを全員倒せたら……（次のシーンが続きます）

ネクロマンサーが死んだ後、空っぽの祭壇へカイムは
足を踏み入れる。フリアエの姿はない。
天井はひらいているのに、なぜか音が響き渡っている。
祭壇に大きく凡字のようなものが書かれている。
そこからモヤモヤと光が出て上に立ち上っている。

（気配で感じる）　空間移動……？

ドラゴン

（舌打ち）　『遅かったか⁉』

カイム達はどやどやと祭壇へ向かう。

その姿は凡字を踏んだ瞬間に、空間が歪んでかき消える。

【36　幻想の方舟】

36―01　GA

海上（上空）

〈ミッション36―01〉

ネクロマンサーとの戦いに手間取っていると、要塞から祭壇が分離して海上を滑り出す。その眺めは、シルクハットをかぶった戦艦。方舟のよう。方舟はみるみる何隻にも増える。幻影だ。幻影は現れては消える。ぶれぶれ。近眼の人の視界がにじんだ状況。誤った舟を攻撃すると、スピリットが飛ぶ。

〈会話が可能ならば〉

「方舟……私達は乗れるのでしょうか？」

『地獄行きでも乗るか？』

36―02　GG

海上・海上要塞内（地上）

（ミッション36—02）
もはや海面に赤い花びらは浮いていない。
正しい方舟に潜入しようとするが、生き残った
ネクロマンサーが襲ってくる。
うまくよけては攻撃、の繰り返し。

36—03　EA　海上・海上要塞（方舟化）内部

祭壇（ベッドのような飾り付け）までいく。しかし、
フリアエの姿はない。レオナールがあちこちを手探りする。

レオナール
（呆然）
女神がいない！　そんな……

カイム達はじりじりと空を見上げる。

ドラゴン

（悔恨）『遅かったか……？』

テレパシー（オーラ）が降ってくる。
それは女神の死、封印の解放を告げていた。

レオナール
（力が抜けて）おぉ！　神よ……

レオナールが思わず膝をつくが、カイムはそんな彼を
蹴り飛ばす。テレパシー（オーラ）出現。

レオナール　私には視えます！
世界はもう……〝再生の卵〟出現の段階まで
（躊躇しつつ）来てしまった……女神はすでに……

カイムはふたたびレオナールを殴りつける。

レオナールは幽霊のように立ち上がる。

レオナール（力無く）
……わかりました。
あなた自身の目でお確かめ下さい。

カイム達はふたたび天を見上げる。絶望的。

ドラゴン（焚き付けて）
『地獄には最後まで付き合わねばな。
……空中要塞へゆくぞ。』

【56　夢の現実】

56―01　GG

空中要塞・内部(地上)

（ミッション56―01）
海上要塞よりさらに入り組んだ構造になっている
空中要塞をかけずりまわってフリアエを探す。
いたるところに隠れられる代わりに、敵も隠れている。
騒ぎにならないよう、出くわしたら確実に仕留めねばならない。
※【35】のつながりでいくと、レオナールがいます。
彼とはここで別れることにしましょうか。

56―02　EA

空中要塞・祭壇前（表）

〈会話が可能ならば〉
・フリアエの無事を祈る

大聖堂のような室内。
祭壇があつらえてあり、毒々しいほど赤い花が飾られている。
祭壇前の4畳ほどの空間はロープで仕切られ、本来ならば誰も
入ってはいけないことになっている。（罰当たりな行為と見なされる）

祭壇の前で　にフリアエが跪いている。
カイムがロープを越えて駆けつけようとすると、イウヴァルトも
入ってきて立ちふさがる。

イウヴァルト
（受け答え）　〝裏切り者〟なんて言わないでくれ、カイム。
（自信に満ちて）　俺達は今、新しい世界を生み出そうとしているんだぞ。
フリアエも生きられる、新しい世界だ！
目を覚ませ、カイム。司教様の教えに賛同しろよ。
生き残ろうぜ！

カイムが殴りかかる前に、すばやく立ちあがったフリアエが

間に割って入る。

フリアエ
（諫める）イヴァルト！
こんなところにいてはいけない。
（苦しくなって）自分の場所に戻って。……く！

フリアエは喀血。（※封印の負荷のため、体力限界）
イウヴァルトは子供のように頭をかかえてしゅんとする。
フリアエに言われるがまま、イウヴァルトはさがる。
その後、小さなマナが祭壇の後ろからふらりと現れる。くつくつ笑う。

マナ（子供声）天使は笑わない。天使は起こしてはならない……

カイムははっとしてマナを見やる。（※元凶の存在に気付いた）
※フェイスウィンドウメッセージ（「セエレに似ている……妹か？」）

マナは恐るべき怪力で、フリアエの体を持ち上げると、かたわらの変わった形をしたプラスチックの柱に張り付ける。

フリアエ（衝撃）　うっ！

マナ（子供声）（一本調子の歌）　ラララララ、ララ、ラララ……

マナはフリアエの周りをけんけん遊びでまわる。

マナ（子供声）　私は女なのに。普通の女なのに。どうしてこんな……ちぇっ、ちぇっ、クソが！

フリアエ（驚愕）　やめて……

マナ（男声）　封印がなんだってんだよ！　私を助けろよ！
役に立たない男どもめ！　助けてください。
おねがい。助けて。抱きしめて。お兄ちゃん。

フリアエ（叫び）　いや!!

マナ（子供声）（フリアエに）　わたし、あなたの心が読めるの。
ふふ、うふふふふ！

フリアエ　違うわ、私……そんなこと思ってない。

マナ（男声）　憎い、憎いよ、クソ野郎！　こんな世界滅びればいいい！

フリアエ　違う！

マナ（男声）　汚いの。私、汚いの。女神なんかじゃない。諦めてるだけ。お願い、お兄ちゃん。私に……

フリアエ（たまらず）　ごめんなさい‼

マナ（子供声）（無邪気に笑う）　はい、女神失格。……どうする？

フリアエ（絶望）　……。

56—02 MV

空中要塞・祭壇前（表）

フリアエの目が泳ぎ、カイムをとらえる。
カイムは一瞬目をそらしてしまう。
フリアエは目を閉じる。
再びすぐに目を開け、フリアエは祭壇にあった短剣を取る。
フリアエの手が素早く動き、短剣を胸に突き立てる。
あまりにも一瞬の行動で、カイムは動けない。
噴き出す血。フリアエは最後の力を振り絞って、
みずから柱に張り付けになる。
カイムが駆け寄る。フリアエは小さく首を振る。

フリアエ
（弱々しく拒絶）

私を……見ないで……

フリアエ絶命。
マナはくるくる回っていたのをやめ、カイムと向かい合う。

ポケットから赤い花びらを出して、まき散らす。

マナ（男声）
（不気味に）

フフフフフ…

天使は、笑う？

56―12　EA　空中要塞・祭壇前（表）

カイム、無我夢中で剣をふりあげ、マナに詰め寄る。

ドラゴンのテレパシーが入る。

ドラゴン
（一喝）

『馬鹿者‼
激情に走るな！　冷静になれ！』

カイムはおさまらない。

ドラゴン
（必死で説得）

『こらえよ、人間！　卵が生まれるのだ。
世界が本当に終わるぞ！
一刻も早く外に出てこい‼』
『女神の死を無駄にするな！』

カイムは仕方なく駆け出す。
フリアエの足元にかがみこんで赤い花びらをまいていく。

＊　＊　＊

○女神の前に司教を見つけたら……（次のシーンに続きます）

56―03　GG　空中要塞・内部（地上）

（ミッション56―03）
思いがけないところに、マナが隠れていた。
マナを司教と認識して対戦。

マナは逃げ足が早い。空中要塞中をところせましと逃げ回る。
見失わないように追いつめること。

〈会話が可能ならば〉
・「見つかっちゃった」「ラララララ」「天使は笑わない」「お母さん」等、
意味不明な言葉をマナはつぶやき続ける。

56—04 EA 空中要塞・内部奥地

倉庫のような部屋。掃除用具や儀式の道具（カーテンやキャンドル、壊れたイス）などが納められている。
この部屋に逃げ込み、ついに行き止まりに追いつめられるマナ。
血をだらだら流しながらも、その場で楽しげに回転している。

マナ（男声）
（一本調子）
天使、天使、天使は歌うよ。ララララララ

カイムがとどめの一発をくらわそうとしている矢先、
セエレが飛び込んでくる。
その後から、ゴーレムとレオナールも来る。

セエレ　やめて！　僕の妹をいじめないで!!

セエレは走り寄るが、マナは回転をやめず。
マナの拳にぶつかり、セエレはたやすく転ばされる。

セエレ（衝撃）　あ！　……うう。

ゴーレムがセエレをかばって、怒る。

ゴーレム（怒り）　『ゴゴゴーゴ！』

セエレ（必死で止める）　だめだよ！　やめて、ゴーレム！
この子は僕の妹なんだ!!
それに……・マナがこんな風になったのは
きっとぜんぶ僕のせいだから！

マナ（子供声）（一瞬覚醒）　……うぅ……オカアサン……

マナが頭を抱えてうなる。（※一瞬マナの良心がよみがえったので）
セエレが慌てて駆け寄って覗き込む。

セエレ　しっかりして、マナ！
……母さんは……もう死んじゃったんだよ。

マナはふたたび、とろんとした狂気の顔に戻る。

マナ（男声）

……ララララララ……
天使を逃がすな。

マナはにこにこ笑いながら、強烈な一撃を食らわす。

SE：骨が砕ける音

マナは壇上にのぼり、演説をはじめる。

マナ（子供声）
（なめらかに）

静粛になさい！
あんた達にわたしは殺せない。
だって、わたしは愛されているから！
あの方に……誰より強く愛されてるの！
いい？　人間は自分たちが一番必要なものに
まだ気付いていない！

……バカね。ほんっとバカばっかり！
救いはそこにあるというのに……。
バカはあの方に愛されっこない。
ララ、ララララララ……
愛されない者に残るは……死よ！

マナは壇上で笑いながらセエレを見やる（指さす）。
ゴーレムはセエレを見て、苦しむ。

ゴーレム（悲しみ）『セエレ、シヌ。カナシイ……』

セエレがびくびくと身体を波打たせ、ゴーレムに助けを求める。

セエレ（苦しげに）ごめんね、ごめんね、許して、マナ……。
……助けて……ゴーレム……

56—04　MV

空中要塞・内部奥地

マナはまだ壇上の上にいる。
恍惚とした表情で天を仰いでいる。
ゴーレムがしゃきーん！とちからをみなぎらせる。
（※いわば、雇い主から殺人命令が下ったようなもの）

（ＯＦＦで、イベントシーンから続いてます）

マナ（子供声）
（高揚して）
（演説）

今こそ、神の愛を知る時です。
深い愛、偉大な愛、そして！
慈悲深き鉄槌を愚かな人間にくだすも
また愛……

ゴーレム
（吠える）

『ゴーゴゴー!!』

マナ（子供声）
（絶命）

ゴーレムは講壇の上に乗ったマナを上から押しつぶす。
セエレは見ていられなくて、耳をふさぎ目を閉じてそっぽを向く。

ラララ……ラ

SE：肉や骨のつぶれる音

マナの笑い声がやむ。ぺちゃんこに潰されたのだ。
講壇からダラダラと血がしたたっている。
そうっと振り返ったセエレは、その状況にまた目をつぶる。
静寂。（セエレのみ、すすり泣き）すべてが終わったと皆が思う。

SE：鈴の音
SE：鐘の音
SE：女性の美しいコーラス（楽曲扱いで）

美しい歌声はまるで、マナの魂をやすらかに天上へ運ぶ天使を予感させるようなものだったが……
その声が次第に割れて、ノイズだらけになる。
画面の振動がはじまる。

全員、慌ててきょろきょろする。

レオナール
（怯えて）

な、なにが始まるのですか⁉
この子供は本当に神の……？

56―05　EA
空中要塞・祭壇

建物が崩れかけている。
イウヴァルトがまだかろうじて生きているフリアエを助け出し、抱きしめる。

イウヴァルト
（懸命に呼びかけ）　「フリアエ！　フリアエ!?」

フリアエ
（弱々しく）　「……イウヴァルト……」

イウヴァルト　「神は死んだぞ、フリアエ！」
（高揚して）　「神はもういないんだ！　自由だぞ！
（狂気）　ハハハハハハハハハハハハッ！」

フリアエはイウヴァルトの狂気に怯え、逃げようともがくが、
逆にますますがっちり抱きしめられてしまう。

イウヴァルト
（狂いつつ）　「だいじょうぶ。だいじょうぶだからな。
怯えるな。だいじょうぶだから……」

「俺達にはやるべきことがあるんだ」

フリアエ
（怯えて）
「……あなたは何を？」

イウヴァルトはばっと手をひろげて天井を見る。（芝居がかって）

イウヴァルト
「フリアエ。俺達は創造主となるんだよ。
エデンがなくなろうとも、俺達が神だ‼」

（間をおいて）
「ハハハハハハーッハハハ‼」

ガラガラと崩壊していく要塞。
ふたりの姿は白い粉塵の中に消える。

【77　真実の行方】

※【56】でマナを倒した場合。

77-01　MV

帝都・上空

ぶあつい雲の隙間から神々しい光の筋がおり、その筋は雲の中をまっすぐ神殿に向かってやってくる。（ここまでの眺めは、いかにも聖なる者の降臨といった平和な感じで）

次に雲がどろどろと溶け始めた。

雲の代わりに現れたのは、巨大な胎盤。このへんからノイズと画面振動。

掃除機のフォースみたいな胎盤の先から無尽蔵に赤ん坊が排出される。

胎盤は空をゆっくり卵のほうへ移動してくる。

彼女は狂喜の目を空に注いでいる。うまそうな赤ん坊だと思って舌なめずり（食う気まんまん）。

アリオーシュの両手が天に伸びる。

迫ってくる赤ん坊の無邪気な寝顔。（しかし、グロい）

77—01　EA　帝都・上空

卵争いの中心付近にいたアリオーシュ、クローズアップ。

アリオーシュ
（歓喜）
来て！

浮いていた赤ん坊が次々と落下。超スピード。
隕石のようにあたりの物を壊しだす。
赤ん坊の落下ですでに地上は崩壊寸前。
落下した赤ん坊は無傷のまま、おんおん泣き出す。
この音がまた破壊をすすめる。
奇跡的に無傷のままであるアリオーシュは気にする風もなく
落下後の赤ん坊に近づく。聖母気取りの微笑みを浮かべ……

アリオーシュ
（恍惚）

SE：赤ん坊の（破壊的な）泣き声

ひとつに……なりましょう。
私の赤ちゃん。

かがみこんだアリオーシュを赤ん坊が食いちぎる。
それでも、アリオーシュの微笑みは終わらない。

SE：食われる音

77―02 GA

空中要塞（上空）

（ミッション77―02）

胎盤からぽこぽこ生み出される赤ん坊が見える。
すでに狂った世界の眺め。
スピリッツが行く手をはばむなか、窪地に低空潜入することで

一定時間以内に目的地（赤ん坊の落下している帝都の卵近辺）を目指す。
〈会話が可能ならば〉
・ドラゴンすらも混乱中。
「バグ」という言葉は出してはいけない。
他に「天使」もNG。「天使の教会」「天使みたい」など直接的でなければ可。

77―03 GG

帝都（上空）

（ミッション77―03）
もはや空（というか雲）がない。作り物のようにはげてしまっている。
（※世界崩壊中）
子天使達は落下で殺せなかった人間達を今度は集中的電撃攻撃か何かで狙いだしている。皆殺しするつもり。
卵に辿り着くまで、殺されないよう子天使を次々と攻撃。

〈会話が可能ならば〉
・カイム本性むきだし。殺し合いが楽しくてたまらない。止まらない。

77―04　MV　帝都・卵周り

子天使にガードされた状態。
しかも背後からも無尽蔵に増えつづけ、カイム達は
はさまれた状態になってしまう。

ヴェルドレ（恐怖）　ひいっ。ひっ、ひ―――！

ドラゴン（冷静に）　『狂うのは後にしろ。』

死人がごろごろ倒れるなか、血をだらだら流しながら
アリオーシュが1匹の子天使を食おうとしている。

アリオーシュ（恍惚）　ごちそう、いっぱい！

アリオーシュは子天使を抱きしめようと高笑いで突っ込んでいく。
もちろん攻撃される。
噛みつかれ、腕をもがれ、唾を吐かれ、それでもアリオーシュは進みつづける。

SE：骨折音、肉をつかむ音（残虐にならないよう）

セエレ
（悲鳴）
アリオーシュが食べられちゃう！

そして……ついにアリオーシュは力尽きた。
腰を抜かすヴェルドレ。

ヴェルドレ
（混乱）
何もかも狂ってる……、ここは地獄だ……

ドラゴン
『現実だ！女の開いてくれた道を進まねば命はないぞ！』

カイムはドラゴンとさっさと走り出す。
ゴーレムはセエレの目を閉じて走り、レオナールも
アリオーシュに祈りを捧げて走る。
ひとり残されそうになったヴェルドレ。（UPカットで）

ヴェルドレ　ヒッ
（情けなく）　ま、待ってくれ～っ！

情けない感じで走り去る

【78　異種の存在】

78―01　MV　帝都近辺（脱出路）

脱出路から見た帝都。結界が張られている。子天使達が張っているのだ。

ヴェルドレ　なんだ、アレは……？
……結界？

結界の内、帝都には胎盤が見える。そして、徐々に母天使が姿を現す。
その周りには子天使の群れ。

（レオナール達の）背後に子天使達がじりじり追撃してきていた。
皆が恐怖で固まる中、レオナールひとりが子天使で埋まった空を指す。

レオナール

（静かに）　道をひらくには皆殺ししかありません。

カメラ母天使にパン

レオナール（決然と）　さあ！　行ってください！

ここは私が……

セエレ　やだよ！

セエレがゴーレムから飛び降り、レオナールにしがみつく。

セエレ　一緒に行けないの？　どうして行けないの？

僕、イヤだ。もう人が死ぬのはイヤだよー！

レオナールはセエレを抱きしめたいが、別の感情が入りそうで
我慢する。

レオナール
(万感込めて)……セエレ。君はとてもいい匂いだ
……だいじょうぶ。私は死にません。
さぁ、行って！　行くのです‼

レオナールは赤ん坊の群れに突っ込み、食われる。
叫びも上げず、「生きてるよ」と言わんばかりにおだやかに
手を振り続ける。

カイム達が見えなくなると、フェアリー出現。

フェアリー　おい、バカ。
あさましい真似するなよ。俺まで死んじゃうよ？
(機嫌うかがい)死んだら、あのセエレちゃんも味わえないよ？

（切迫、早口）　……お願いしますよ。生きてください、レオナールさん。

レオナールが腕を振り回し、フェアリーの光を握りつぶす。

フェアリー
（潰される）　ぎゃっ
（逆ギレ早口）　どうせ怖くて死ねねぇんだろがっ⁉　なっ？　そうだろっ？
（断末魔）　おい？　やめろって！　やめろおおおおおっ！

レオナール
（気迫）　……希望の最期は死にあらず！
ぐわっわあああああああ！

レオナール、絶叫と共に死亡。

78—02　GG　帝都近辺（地上）

（ミッション78—02）

【77】とは別の方角の近辺。

子天使達が抜かりなく狙うなか、わざと囮になるなどして集める。そして起爆魔法で全滅を狙う。

子天使を全滅させると、母天使に近づけるようになる。

そこでダメージを与えていく。

〈会話が可能ならば〉

・セエレが母天使がいざなう別世界に気付く。

・別世界は〃おおいなる時間〃を越えたところにある。

・その〃おおいなる時間〃が今、乱されようとしている。

＊　＊　＊

○一定時間内に子天使を全滅させたら……（次のシーンに続きます）

78—03 EA　帝都・卵周り

母天使が形を変える。腹にブラックホールが出来る。

ヴェルドレ（圧倒され）　世界の……何もかもが飲み込まれていく……。
　アレは……何だ？
　なぜ、〝おおいなる時間〟を歪める⁉

セエレが苦しみだす。（体を折り曲げたり、頭を抱えたり）

セエレ（悲鳴）　熱い！　からだが熱いよ！

ゴーレム　『ハンノウ、シテル？』

ヴェルドレ　反応？　何と？
（信じられない）　……まさか、アイツと⁉

ヴェルドレは母天使のほうを振り仰ぐ。

ドラゴン
『幼な子が失ったものは〝時間〟。
ありえぬ話ではない』

ゴーレム
（苦しい）
『ゴオオオオオー！
セエレ、ケイヤク、キレル』

ドラゴン
『……〝おおいなる時間〟が……？』
（脂汗）
『ならば……最後の希望は……』

【79　覚醒】

79—01　GA

帝都近辺（上空）

（ミッション79—01）

【78】で生き残った子天使達が数珠つなぎとなり、形を変えて（すでに赤ん坊の姿でなくても良い。今まで死んでしまった仲間の姿や子供時代の自分の姿になるとか、カオス状態）襲ってくる。

一撃くわえると元の子天使の姿に戻り、子天使にすかさずもう一撃加えると本当に死ぬ。

子天使達は死ぬと、ぼとぼと地面に落ちていく。

母天使にはダメージが与えられない。

〈セリフ〉

・セエレの時間とおおいなる時間についての考察。

79—02　EA

帝都近辺・上空～低空

ヴェルドレ
（取り乱す）

このシーンは次のシーンに結合。

カイム達が戦闘に手間取っているうちに、母天使の「出産」がはじまる。腹にブラックホールが出来たかと思うと、次々に子天使を噴き出していく。（この時の子天使の姿もカオスで）

子天使達はカイム達をめがけて降ってくる。けたけた無邪気に笑いながら。

助けて！　神よ‼　助けたまえ！
死ぬ！　死ぬ！　死ぬのはイヤだ‼
イヤだっっっっ‼

逃げる場所もないのに、ヴェルドレがやみくもに走り出し、かっこうわるくつまずいて転がる。

79—03　EA

帝都・上空

下に見える帝都は廃墟。
何万年も前に滅んでしまった文明のように朽ち果てている。
カイム達は子天使と格闘している。
母天使はその姿を刻々と変え、楽しそうに世界を消し始めた。
地上でゴーレムが格闘していると、ゴーレムの肩からセエレが降りる。
すたすたとドラゴンの真下に歩き出すセエレ。すごみがある。

ゴーレム
（苦しげ）

『セエレ、アブ……ナイ。』

そういうゴーレムこそ、危ない。子天使に食いつかれ、崩れていく。
セエレは寂しそうにゴーレムを振り返ると、にこりと微笑む。

セエレ
（せつなく）

バイバイ。

セエレが子天使にやられそうになり、ドラゴンが舞い降りて庇う。
カイムはドラゴンの背から飛び降り、ゴーレムを救いに走る。
（※ここで、ドラゴンとセエレの2ショットとなります）
セエレはスキをついてドラゴンの背によじのぼる。天を指す。

セエレ（きっぱり）　僕をあそこまで連れてって。

ドラゴン　『……本気か？』

セエレはうなずく。

セエレ　僕……・わかるんだ！
アレは〝時間〟をあやつるモノでしょ？
放っておけば、怖いコトがたくさん起こるよ。

ヴェルドレ　セエレ！　何をするつもりだ？
（嫌な予感）

セエレ　僕しか……いないんだ。
（覚悟して）　同じモノを持っているのは、僕しか……。

ドラゴン　『ヤツと戦えば、自分がどうなるかわかっておるな？』
（念を押す）

セエレ　昔々、あるところにひとりの勇敢な兵士がおりました。
（お話語り）　兵士は時の滴を飲み干し、世界の穴で眠っておりました。
ずっと、ずっと、若くて強い、そのままの姿で……

ドラゴン　『？』

セエレ（お話語り）
けれども、世界が血で染まった時、兵士は目覚めました。
「今こそ、我の命を使う時！」
兵士は時の滴にひたった体で、世界の果てを目指しました。
兵士は老い、弱り、やがては死にましたが、兵士の永遠の
時は、世界に新たないのちを作りましたとさ。おしまい。
……〝ちいさい勇者さま〟の話だよ。母さんがお話してくれた。

ドラゴン（励ます）
『神話において勇者はいつも〝希望〟だ。
……おぬしにも……その血は流れておる。』

セエレ（決意）
嬉しいな……。
飛んでよ。あそこまで連れてってって！

戻ってきたカイムが子天使を振り切り、ドラゴンの背に飛び乗る。

セエレの頭をぐしゃりと撫で、剣先を母天使に向ける。
カイムは声は出ないがたしかに吠えた。

ドラゴン
（やる気）
『……辿り着けるか？』

ドラゴン飛び立つ。
カイムに助けられたゴーレムが膝をついて見上げている。
安全なところに隠れていたヴェルドレが出てきて、地上から叫び立てる。

ヴェルドレ
（ヒステリック）
無駄だ！　無駄だ!!
幼子のいのちひとつで何が変わろう!?

ゴーレム
（お別れ）
『セ……エ、レ』

79—03　MV　帝都・上空

ドラゴンはぐんぐん上昇。母天使のほうへ向かう。
世界はどんどん白I色になっていく。このままだと無に帰してしまう。
ドラゴンの背にカイムとセエレが乗っている。（セエレはドラゴンの頭に乗っている）
ドラゴンとカイムが子天使を殺しまくるなか、セエレは何も目に入ってないかのようにまっすぐ母天使のほうへ手を伸ばす。
そして、ジャンプ！

セエレ
（ほっとして）
これで……許してくれる？　マナ……。

最後の最後で、ドラゴンとカイムは殺され、落下していく。
しかし、間一髪、セエレは母天使（世界の果て）に届いた。
（※セエレが母天使の体に触ると、母天使は動きを止める）
世界の破壊が止む。

セエレは苦しそうな表情で、ずっと母天使をおさえている。
セエレの体はみるみる老いてしぼみ、骨と皮になる。ミイラとなって落下。
落ちていくセエレ（ミイラ）を、世界再生の兆しとも言うべき光が覆う。

D路　END

【89　回帰】

※【78】で一定時間内に子天使を全滅させていると以下に続きます。

89―01　EA

帝都・卵周り

母天使の腹はどんどん膨れ、しまいには腹だけで出来ているような
外見になっていく。
そしてその腹にはぽっかりブラックホールのような穴が空いている。
空は暗く、ブラックホールのせいか嵐のような風の強さ。
その風に乗ってしまったものは、すべて吸い込まれてしまう。
カイム達の仲間も何か物につかまって、ブラックホールに吸い込まれ
ないようにするだけで精一杯。

ヴェルドレ
（自暴自棄）

おしまいだ！　おしまいだー！

ドラゴン（皮肉）　『祈らぬのか？』

ヴェルドレ（救いを求めて）　何にっ？　……何にすがれば良いのです!?

ドラゴン（無慈悲に）　『知るか。すがるものなど、
はじめから何もないのだ。』

ヴェルドレ、がっくり。
セエレは母天使との反応が顕著すぎて、ぐったりしている。
カイムがドラゴンに向かってテレパシーを飛ばす。
（「どうすればいい？」とか）

ドラゴン（覚悟を決めて）　『そうさな……虎の子を見つけたくば、

虎の巣に入るしかなかろう』

ドラゴンとカイムはにやりと笑い合う。死の覚悟が出来たのだ。
ゴーレムに抱きかかえられているセエレが敏感に察知して
必死でカイムに手を伸ばす。

セエレ
(弱々しく)
やだ。行かないで……カイム!
僕をひとりにしないでよー!

ドラゴン
(励ます)
『生きておれば、また会えようぞ』

セエレ
(涙をこらえて)
……じゃあさ……せめて……

セエレはめそめそを必死でこらえる。

セエレ
（叫ぶ）

忘れないでっ！　僕のこと‼

（※カイム達は死ぬんだろうな、と予感している）

カイムはニヤリと笑って、セエレの頭を撫でる。
そしてドラゴンの背に飛び乗ると、ブラックホールへと突入していった。
カイムを飲み込むと、母天使、および子天使がきれいさっぱり消える。
風も止む。
生き残った人間達は呆然と空を見上げる。雲が晴れ、ウソのように
爽やかな青空が広がっている。久しぶりの青空。

89—02　EA	新宿・上空

そして同じような青空の下。現代日本。
（見えるなら、東京タワー等、現代東京のシンボルを）
周りには高層ビル。平和な日本の光景。休日らしく、

家族連れがレジャーシート敷いてお弁当食べてたりする。
そこへいきなり、空がゆがみ、母天使とカイムが出現する。

ドラゴン
(わからない)

『ここは……神の国なのか？』

89―03　GA

新宿（上空）

（ミッション89―03）
ここはヨコオ氏のイメージがあるので、
それを優先していただきたいと思います。
以下、ご意見抜粋。

※ここの面はエフェクト以外は全てモノクロです。
巨大な母天使（身長は都庁の半分くらい）が天から降ってきて、
都庁のあたりに落ちて内臓？をぶちまけて瀕死になりながら、
何故か歌う、という音ゲー面です。

画面は怪獣映画で音がオペラ、みたいな感じか？

〈セリフ〉

・どこまで来たのか？　神の国か？

89-04　MV

新宿・上空

ついに母天使消失。長かった地獄も抜けたように思えたが……

下界はパニック。悲鳴が上がっている。

マスコミのヘリコプターの音が近づいてくる。戦闘機も。

カイムとドラゴンは何もわからず、互いの健闘をたたえあう。

ドラゴン
（喜び）

『やったぞ！　ついに……』

次の瞬間、今までのゲーム中にはなかったような近代的

ミサイルの閃光でカイム達は包まれてしまう。

白煙をあげて落下していく。

戦闘機（通信）
「こちらスカーフェイス。目標に命中。
正体は依然不明。霞ヶ関方面に落下した模様。」

昼間の花火のような煙がゆっくり弧を描いて落下していくなか、
見物客達からまばらな拍手や口笛が上がる。

見物客A（OFF）（のんきに）
何かのロケ？　え？　マジ？

見物客B（OFF）（気楽に）
すごーい。ゲームみたーい！

マスコミの中継車が走ったりと、現実がカイム達を飲み込んでいく。
東京タワーにドラゴンが刺さっているカットで終わり。

E路

END

【25　妖精の記憶】

※2回目以降、レオナールを仲間にしていたら【04】からこちらへ。

25—01　GA　封印の森・上空（上空）

（ミッション25−01）

封印の森上空で戦闘。

25—01　EA　封印の森

ツタのからまる、うっそうとした森。光は射さず、暗い。
しかし、ところどころ焼き討ちにあって火が燃えている。

フェアリー
（ふざけて）
ワアチャー！　俺の森が燃えてるよーん。
人間が入ったんだもんな。燃えて当然だろさ。

レオナール　臭うぜ。フヒャ！　人間の皮膚がぺろんと
　はがれてる臭いだ。くせぇ、くせぇー！

（深刻に）

フェアリー　大変だ。すぐに救助を……

レオナール　よっ、よっ、おまえよっ、木の陰もちゃんと探せよっ。
　アレしてるヤツが、調子良く生き残ってるかもよっ！
　フーヒャハハハッ!!

（屈辱）

フェアリー　……くっ。

ドラゴンとカイムは意味がわからず顔を見合わせている。

（からかう）　コレ、ソレ、アレ、ドレ？　……フヒャ！
おぅ、木の陰だ！　裏！　ちゃんと見ろよ、バーカ。

フェアリーはバカ笑いしてはげしくレオナールのまわりを飛び回る。
ドラゴンとカイムとレオナールが木の陰を見ると、そこから妖精種族達が飛び立つ。（蛍の大群のように、光の玉の乱舞いをイメージ）
※以下の妖精種族のセリフは複数が声をそろえて言ってる感じにしたいです。
レオナールは頭をかかえてガタガタ震える。
フェアリーが容赦なくそのまわりを飛び回る。

フェアリー
（意地悪く）　目は見えずとも、匂いはすんだろ？　よっ？
おまえのだ～いすきなぴっちぴちの匂い。よっ？

むだ毛のない、まっちろな、すべすべおみ足の
大軍はこっちだぜ！

妖精種族達の光に導かれ、カイム達は奥地へ分け入っていく。
少年達ばかりがうろうろしている帝国軍の駐屯地が出現。
少年達は木陰で覗いてるカイム達には気付いていない。

ドラゴン　『少年兵ばかりの部隊か……』

フェアリー　そっ、そっ、ウキャキャ！
少年、少年、美少年！　おいしそうねー。

レオナールはいまいましそうにフェアリーを手で追っ払う。

レオナール

（無理に冷静）

……駐屯地があるということは
このあたりに捕虜もいるはずです。

25—02　GG

封印の森（地上）

〈ミッション25—02〉

・水晶探知なり発煙筒なりで捕らえられた味方を見つける。
そこの番人をしているモンスターを倒して救助。

・モンスターを倒すと、少年兵達が捨て身で攻撃してくる。
※少年兵達はモンスター使いではあるが、肉弾戦に弱い。
カイム（プレイヤー）は情け容赦なく少年達を殺すが、
レオナールは動揺を隠せず、ひとりも殺せない。

25—03　EA

封印の森・帝国軍駐屯地

〈会話が可能ならば〉

・少年達の悲鳴や最期の懇願等。（レオナールを苦しめそうな……）

レオナールが少年兵の死体を弔ってやろうとしゃがみこむ。
フェアリー出現。

フェアリー　おいおい。死体にまで欲情すんのか？
ウヒャヒャ。たまってるンデスねー！

レオナール（怒る）　弔ってやるのです！

フェアリーの光の玉が物陰に飛んでいき、戻ってくる。

フェアリー　フヒャフヒャフヒャフヒャ……！
死体もてあそんでる場合じゃねーぞ。
聞こえねーのかよー。よー、よー。

レオナール
（耳をすます）　え？

レオナールがふりむくと、生き残った少年兵が這いずってくる。

少年兵
（弱々しく）　たす……けて……。

慌てて少年に駆け寄り、抱き起こすレオナール。

少年兵
（可愛く）　僕……僕、こわい……

レオナール　だいじょうぶだ。もう、だいじょうぶだ。

フェアリー

レオナール　おや？　おややや？
ざっくりいかねぇのかよ？　敵だぜ？
ずっぽりいくのかな？　やっぱし。ウキキ。
私の弟と……そっくりなんです。
声が……。

カイム達が戻ってくる。
レオナールは少年をとっさに背にかばう。

ドラゴン
（詰問）
『おぬし、何をやっておる⁉』

レオナール
（少年を庇って）
まだほんの子供ではありませんか！

少年はレオナールの背に隠れて、ビホルダー（orガーゴイル）を呼ぶ。
不意打ちを食らう形で、ドラゴンが倒れる。

レオナール
（驚愕）
そんな……。

少年兵
（にくたらしく）
バーカ。

フェアリー
（大爆笑）
フヒャヒャヒャヒャ！
バーカ、バーカ。傑作。一等賞！

カイムが斬り込んで、少年兵を殺す。
ビホルダー（orガーゴイル）が追いかけてくるので、逃げる。（移動戦闘へ続く）

【26　竜の休息】

26—01　GA

封印の森・上空（上空）

（ミッション26—01）
カイムとレオナールはドラゴンと味方群をかばって、光のある方へ移動しながら戦う。
森林は暗いので、敵はいつも突然飛びかかってくる。
ビホルダー（orガーゴイル）とトレントが敵。

〈会話が可能ならば〉
・フェアリーのレオナールいびり

26—01　GG

封印の森・森の奥地へ移動しながら（地上）

（ミッション26—01）
封印の森奥地を目指しながら進む。

26—02 EA　封印の森・奥地

光が射し込んでおり、泉がわき出ている。いかにも穏やかな感じ。
カイムがドラゴンの傷の手当をする。
レオナールは土下座状態。

レオナール　どうもすみません！

ドラゴン（叱責）　『なぜいらぬ情けをかける⁉』

レオナール（言いよどんで）　それは……

フェアリー（意地悪く）　言えねーよなあ！　フヒャ。

レオナール　少年が可愛かったからとか言えねーよなあ！
抱きたいなんて……プッ。フヒャヒャハアッハ！

（屈辱に震え）
いっそ……
今ここで死なせてくれ……。

フェアリー　はあ？　何言ってんのお？
もしもーし？　アナタ死ねなかったんですよねー？
ためらい傷バリバリ！
……やだなぁ。俺といっしょに生きてくれるって
約束したじゃないですか、お兄さん。
俺、もうひとりじゃ生きられない身体なんですよ。
契約ね、契約。フヒャヒャヒャ。おねがーいしマッス。

泉がボコボコあぶくを立てて、妖精王出現。

レオナールのまわりをうるさく飛び回っていた
フェアリーがピタリと止まる。そして消える。

ドラゴン　『おぬし、まさか……？』

妖精王
(早口)　いえ、特に名乗るほどの者では……。
(慇懃無礼)　ただ私は臭くて野蛮なあんた達にこれ以上
この森にいてほしくないだけでして。
へっへっへっへ。ほぉっほ。こりゃ失敬。
いちおう長としてはね、言うべきことを言わないと。

ドラゴン
(合点がいく)　『フェアリーの長か！』

妖精王

（嫌味に）燃えた木は元に戻らないんですよねえ？
人間ひとり死んだってロクな肥料にならんが、
木は森を作る骨組みでしてね、はい。

ドラゴン　『脅すならよそをあたれ。
付き合ってられぬわ！』

妖精王　へっへっへっへ。ほおっほ。脅すなんてそんな！
とんだ邪推ってもんですなあ。
ドラゴンさまほど位が高いと、さぞかし複雑な
ことをお考えなようで……人間とじゃれ合うのも
ひとつの作戦なのか？と。
下等なものにやられるのも興のひとつか？と……

ドラゴン

（一喝）『失せよ！』

ドラゴンが吼える。妖精王は飛び回る。

妖精王　ほおほっほっほ。こりゃ失敬。
（面白がって）図星はイタイもんですからね、へっへっへ。
それはそうと砂漠は暑いですねえ……
死体の腐りも早いでしょうなあ。

レオナール　砂漠？　砂漠がどうかしたのですか？

妖精王　こりゃ口が滑った。
いや、言えませんよ。神官長一行が間抜けヅラ
並べてあっさり襲われた、なんてねえ。

ドラゴン
あんたらのお仲間の無事も定かじゃない。
いい気味だなあ！　なんてねえ。

『カイム！　砂漠へ急げ』

カイム達が慌てて森を引き返していく。

妖精王
（楽しそうに）
みんな死ねばいいのに……なんてとってもとっても
めっそうもなくて、言えませんってばあ。
へっへっへっへ。ほおっほ。ほおほっほっほ！

【28　海蛇の苦悩】

※２回目以降、レオナールとアリオーシュを仲間にしていたら【07】からこちらへ。

28―01　AC

海上

小さな島がぽこぽこと浮かんでいる海。波はおだやか。
比較的大きめの島全体を占めるようにして神殿が建てられている。
島の周りを、帝国軍（天使の教団）の船が取り囲んでいる。
人影が島をよじのぼっていくのが見える。（カイム達も船移動）

ドラゴン

『封印を守る者は大勢いよう。
しかし最後まで守りぬく者は少ない。
……急ぐのだ!!』

何艘かの船が全速力でカイム達に向かってくる。
そのうち、何艘かに【05】で消えたエルフの子供達が舟に乗っている。
エルフの子供達を乗せた船は途中で進路を変える。
そして、子供達を海中に突き落とす。子供達の悲鳴。

SE：子供達の悲鳴

レオナール（沈痛）

あの悲鳴……なんとむごいことを……。

ドラゴン（冷静に）

『小さき者を弱き存在と思うは、みな同じ。
ゆえに守るか？　捨てるか？　その違いよ。』

アリオーシュが飛び込んで、子供達のもとへ泳いで向かう。
子供のいなくなった船は仲間の船の進路に戻り、一路カイム達をめがけて襲ってくる。シーサーペントまで登場。

レオナール　こ、子供たちは⁉
（動揺）

ドラゴン　『封印を守ってから考えろ！』
（一喝）

レオナール　そんな……
（やりきれない）

カイム達、敵と真正面からぶつかる。

28—02　GA　海上（上空）

（ミッション28—02）

帝国軍（天使の教団の船）の攻撃をよけつつ
海面に顔を出したシーサーペントを、モグラたたきのように攻撃。
シーサーペントの起こす高波に気をつけよう。

ウンディーネとサラマンダーも手伝ってくれる。
帝国軍の船も倒せるが、こっちを倒さなくてもシーサーペントを倒せば自動的に戦闘は終わってくれる。

〈会話が可能ならば〉
・早く片付けないと、子供とアリオーシュもあぶない。
・子供エルフの里でいなくなっていた者達だ。〝神殿開け〟に使われた。

28—03 EA

海上

水上で、子供達の死体が浮いてる。
アリオーシュ・レオナールは精霊と妖精の力で海の上に浮遊している。
シーサーペントを倒すと、帝国軍の船は島のまわりに戻っていく（退却）。

レオナール

子供たちは？
アリオーシュはどうしました⁉

アリオーシュと子供達の様子が映る。
海は血で赤く染まっている。子供達の溺死体が浮くなか、
口元を血でぬらしたアリオーシュが振り返って近づいてくる。

アリオーシュ
（狂っている）　美味しい。美味しい子供達……もうだいじょうぶ。
安心なさい。私が守る……美味しい、美味しい……

レオナール
（信じられない）　血の匂い⁉

レオナールが必死に祈る。
アリオーシュ、バリバリ音を立てて食っている。

SE：肉や骨が砕ける音（人食い）

レオナール

（咎める）

サラマンダー

ウンディーネ

サラマンダー

ウンディーネ

なぜです……？

アリオーシュ、あなたに子供はいないのですか⁉

サラマンダーとウンディーネが出現。

殺された。

帝国軍によって殺され、捨てられた。
こんな風に、血の海へと捨てられた。

そしてこの先、子供を持つこともない。

我々との契約に〝子宮〟を使ってしまったから。

サラマンダー
ウンディーネ
（ふたり声をそろえて）
よって永遠の、狂気と孤独。

一同、呆然とアリオーシュを見るが、本人は狂気の淵にいってしまっているようで、無反応。

ドラゴン
（叱咤）
『……止まるでない。死にたくなければな。
ゆくぞ！　次は神殿だ。』

カイム達は神殿のある島へ向かう。

【29　漁火】

29－01　GA

海上・海の神殿上空（上空）

〈ミッション29－01〉

帝国軍の船団を攻撃して沈没させ、上陸中の帝国軍兵士も倒す。海上神殿に敵を入れさせないように。

船の大きさがさまざまなので、効果的な攻撃方法はそれぞれ違う。

〈会話が可能ならば〉

・レオナールはまだショックがつづいている。フェアリーがいびる。

29－02　EA

海の神殿・内

神殿内の装飾は砂漠の神殿と同じ感じ。

神官達の死体が転がり、封印は解かれた後だった。

（チベットの砂絵のようなもの（＝封印）が踏みにじられている）

カイム達は膝をつく。がっくり。
（レオナールのみ、目が見えないのですぐにはわからない）
アリオーシュは落ち着かなげに歩き回り、手を振り回して唸ってる。
と、いきなり砂絵（封印）のそばにしゃがみこみ、なでまわす。

レオナール（おそるおそる）　神殿の封印は……？

ドラゴン　『残念ながら、無に帰したぞ。』

レオナール（がっくり）　……そうですか。

アリオーシュ（上機嫌）　きれい。きれい、きれい……

みんなはそんなアリオーシュの姿をやるせなく眺め、立ち上がる。

ドラゴン
（苦々しく）
『封印を、作るも人間、壊すも人間。
愚かな独り遊びをいつまで続ける……？』

カイムがはっと妹のことに思い当たり、テレパシー（オーラ）を
飛ばす。（フリアエは無事か!?）

ドラゴン
（受け答え）
『心配するな。最終封印は無事だ。
今のところ女神の悲鳴は伝わってこない……』

レオナール
（気を取り直す）
私達の行動がまた後手にまわっては
目も当てられません。
はやく砂漠へ戻りましょう！

※【10】へつづく。

【31　辺境の巨人】

※2回目以降、レオナールとアリオーシュとセエレを仲間にしていたら、
【10】からこちらへ。

31—01　EA	山岳渓谷・入り口付近

赤い岩石で形成されている。草木が岩の間から少しのぞく。
谷へ向かって歩いていると、セエレはうきうき楽しそう。
ゴーレムの背からおり、スキップせんばかりの軽い足取りでおどけてみせる。

レオナール
（軽く注意）
セエレ、ふざけているとあぶないですよ。

セエレ
（殊勝に）
ごめんなさい……。
（うきうきと）
でも僕、本当に嬉しいんだ！

みんな、僕の妹をさがすために
ここまで来てくれて、ありがとう！

フェアリー（意地悪く）
なあなあ、無邪気でカワイイぼっちゃんよぉ！
エルフにいっぺん食われてきてください。マジで！

セエレはフェアリー（光の玉）にまとわりつかれ、
逃げる。みんなとの間にちょっと距離が出来てしまう。
ドラゴンがピクリと首を持ち上げる。（異変を察知）

ドラゴン（鋭く）
『そっちへはゆくな！』

ドラゴンの言葉より早く、セエレは動き出した赤岩（実はマッドゴーレム）
に締め上げられる。セエレをさらって奥へ進もうとするマッドゴーレム。

セエレ
（悲鳴）

フェアリー
ヒャーハハハッハ！
バイバーイ！　バイバーイ！
やぁ、カミサマはいるのな。なっ？
これであの使えねぇ偽善ガキが
切り捨てられるってもんよ。

（大爆笑）

レオナールがフェアリーを黙らせ、カイム、ゴーレムと共に
マッドゴーレムを倒す。（※ここはミッション予定）

31—01　GG	山岳渓谷・入り口付近

（ミッション29—01）
マッドゴーレムと戦闘。

31—11　EA　山岳渓谷・入り口付近

ゴーレムが気を失ったセエレを抱き上げる。

ゴーレム（必死）　『ンガー、セエレ、シヌ、ハ、イケナイ』

その時、呪文のような音楽っぽいものが響いてくる。

ゴーレムは耳（ないけど）をふさぐようにして、セエレから遠ざかる。

その騒ぎでセエレが目を覚ます。

SE：男のうなり声（呪文風だが何を言っているかは不明）

セエレ（あどけなく）　ん……ゴーレム？　どうしたの？

レオナール

（不安げ）　この声は何ですか？　一体どこから……？

ドラゴン　『付与魔術師の呪文だ。
岩陰にでも隠れておるのだろう。』

レオナール（切迫して）　セエレ！　ゴーレムのそばにいっては
危険です。彼はもう……今までの彼ではない！

セエレ　……そんな！

ゴーレムは岩に頭を打ちつけるなりして、必死に正気を
取り戻そうとしているが、苦しそう。

セエレは見ていられなくなって、レオナールの手を振りきり

ゴーレムの前へ飛び出していく。

ゴーレム（狂い気味）　『ンゴゴゴガガガガ……』

セエレ（必死で）　僕だよ。セエレだよ！
ゴーレム、しっかり!!

ゴーレムのパンチでセエレは軽く吹っ飛ぶ。
ゴーレムは意識が残っているので頭を抱える。

ゴーレム（苦しげに）　『ンガガガガ……セエレ、クルナ。』

セエレはよろよろ起きあがる。

セエレ（けなげに）　僕を……殴っていいよ。
いっぱい、殴っていいよ。

ゴーレム（混乱）　『グゴ……ゴ？』

セエレ（強く命令）　ゴーレム！　僕を殴れ!!

フェアリー（嘲笑う）　マゾだ。真性マゾガキ！　フヒャフヒャ。

ゴーレムの渾身の力がセエレに振り下ろされる。死なない程度に。
セエレは倒れる。アリオーシュが忍び寄るが、正気にもどった
ゴーレムに追っ払われる。

ゴーレム

セエレ
（弱々しく）

レオナール
（びっくり）

ドラゴン

『セエレ！　セエレ⁉』

よ……かった……。
いつものゴーレムだ。僕の……友達。

ゴーレムはセエレをそっと肩にのせて進む。

ゴーレムが元に戻った⁉

『ショック療法だ。
契約相手の身体を傷つければ、
己も傷つくことになる。』

アリオーシュ
（つまらなそう）
また食べそこねたわ。

ドラゴン
『付与魔術師は隠れるのがうまい。
気を引き締めてゆくぞ。』

31―02　GA
山岳渓谷（上空）

（ミッション31―02）
岩石だけで形成された山岳地帯。
草木は1本も生えておらず赤い岩肌がのぞいている。
（グランドキャニオン風）
近づくと、人間が手を振って救助を求めているのがわかる。
マッドゴーレムに襲われているのだ。救助に向かう。
ゴーレムは復活能力があり、いったん死んでも時間が経つと
生き返ってくる。なので、ある程度倒したらすばやく地上に

降りて付与魔術師を倒さねばならない。

付与魔術師は岩影にかくれて逃げ回っているので、ゴーレムが生き返る前に早く見つけなくてはいけない。

※セエレのゴーレムになにかハンデがついてもよいかも。

〈会話が可能ならば〉

・ゴーレムは復活能力がある。

・動きはのろいが破壊力ばつぐん。スピードをいかした攻撃がいい。近づいて、ためうちで大ファイアーボールを飛ばすと有効。

・ある程度ゴーレムを倒したら、地上に降りて「付与魔術師」を倒さないとキリがない。

・セエレがなぜ自らを痛めつけるのか？

・マナ（妹）が母親の虐待を受けていたこと。

31—02　GG　山岳渓谷（地上）

（ミッション31—02）

ゴーレムと戦闘。

31—03　EA　山岳渓谷・奥地付近

谷を臨む。誰もいないし、人間が生きていられそうにない地形。

レオナール　〝音〟がありませんね。
こんなところに……セエレの妹さんはいるのでしょうか？

アリオーシュ　美味しそうな匂いもしないわよ。

ドラゴン　『だろうな。
この悪環境のもとで人間が
生き残ることなど不可能だ。』

セエレはショックを受け、ゴーレムの肩から降りる。

岩の陰などを探し回る。

セエレ（声を上げて）　マナ！　マナ!!
いたら返事をして！
僕だよ！　セエレだよ!!

レオナール　セエレ、気をつけてください。
まだこのあたりに敵が……

言ってるそばから、セエレは空からきたモンスターにさらわれる。

セエレ　（悲鳴）

レオナール

大変です！　早く追わなければ！

フェアリー
ウキャキャ。傑作！　いつもいつも可哀想なセエレちゃんは不幸を呼び寄せちゃいマスね。
（憎々しげ）
厄介者はさっさと死ね！　ぺっぺっ、死ねっ!!

カイム達はモンスターを追って、奥地へ進む。

【32　狂気のコロシアム】

32－01 GA

山岳渓谷（上空）

（ミッション32－01）

コロシアムを探しながら戦闘。

32－01 GG

山岳渓谷（地上）

（ミッション32－01）

コロシアムを向かいながら戦闘。

32－01 EA

山岳渓谷・奥地・コロシアム

競技場の真ん中でささげられるセエレ。

モンスター

今日の賞品はいいのが入ったぞぅ。
人間のガキだ！
成長の止まった出来そこないだがな！

コロシアム熱狂。

セエレ
（しゃくりあげ）

ひっく、ひっく。
ちがうよ……僕は出来そこないじゃない。
僕が大きくならないのは、いつか必要な
時がくるまで、ちからをためてるからなんだよ。
僕は〝ちいさい勇者さま〟なんだ……。

モンスター

うるせえ！
何おとぎ話みてぇなホラ吹いてやがる！

セエレ（ムキになる）
本当だもん！　お母さんだって
ゴーレムだって、そう言ってたんだ‼

モンスター
ん！　おめえが必要とされる時なんて
くるわけねーだろっ！
一生チビで足手まといのまんまだよっ！
コロシアムの賞品になれただけ、マシだな。

セエレ（泣きそう）
足手……まとい……なんか……じゃ
ないもん！

上空をドラゴンがサッと横切り、カイムが着地する。

モンスターと対峙するカイム。

レオナール（カイムに）　セエレを頼みましたよ。

ドラゴン（カイムに）　『……ちょうど良い機会だ。
救うために剣を振ることを覚えてこい。』

32―02　GG　山岳渓谷・奥地・コロシアム（地上）

（ミッション32―02）

コロシアムで10人の亜人兵士と決闘。

※この時にしか使用されない（実践と違う）ルールがあっても良いかもしれません。

※セエレとマナと母親の確執のヒントを何か見せてもいいかも。
（ビンタの音で、セエレが少し思い出すとか）

32—03 EA　山岳渓谷・奥地・コロシアム

観客の大ブーイングの中、カイムの腕にセエレが飛び込んでくる。

セエレ（感謝）　あぁ！　ありがとう！
本当に、僕、もう……ありがとう!!

カイムは気まずそうに頭を掻く。

レオナール（にこやか）　セエレ……無事で良かったですね。

セエレはやっとカイムから離れ（といっても、まだカイムの服を握っている）、みんなに頭を下げる。

セエレ

ごめんなさい。
僕、みんなのジャマばかり……。

その時、ドラゴンがテレパシーをキャッチ。

レオナール　（ハッとして）
『……この悲鳴は⁉』

カイムはうなずく。

ドラゴン　（沈痛に）
『番人フェアリーの断末魔だ。
……神殿の封印は３つとも壊滅らしい』

レオナール
『残るは、最終封印……女神のみ⁉』

カイムは苦渋。身をよじる。剣を地面に突き立てる。

ドラゴン

『連合軍は最終攻撃を仕掛けるだろう。
我らもゆこうぞ。決戦の場、帝国領土へ！』

カイムはセエレを振り払って飛び立つ準備。
セエレはつっころばされる。

セエレ
（おろおろと）

あぁ……また僕……僕のせいだね？
僕が谷に行きたいなんて頼んだから
余計な回り道を……

カイムはカッとなって、セエレに剣をつきつける。
テレパシー（オーラ）が出る。（怒っているのだ）

ドラゴン（冷たく）　『……反省という名の言い訳ばかりしていても、事態は何も変わらぬぞ。』

セエレ（けなげに）　……う、うん。わかった。

セエレは涙をふいて立ち上がる。ゴーレムが寄り添ってやる。

レオナール（気を使って）　セエレ、妹さんは……

セエレは首を振る。

セエレ（苦渋の決断）　もういいんだ。
僕……あき……らめる。

（決意）

それより、早く行かなくちゃ。

けなげなセエレ、先頭切ってかけだす。

※【13】へつづく。

■A路

分かち合う魂

世界の手綱を帝国軍が握ろうとしていた。長い期間、連合軍と勢力を二分してきた帝国軍であったが、最近、異常なほどに強大な存在になったのだ。その強さの理由は、謎に包まれていた。

帝国に滅ぼされた小国の元王子カイムは自ら志願して連合軍の戦士をしていた。謎の強さをまとった帝国軍との戦いのさなか、自軍の城が攻め込まれていることを聞く。城には、封印を保つことを義務づけられた女神フリアエがかくまわれていた。フリアエはカイムの実の妹である。世界の財産である女神というよりは世界にただひとりしかいない実の妹を守るために、カイムは単身乗り込んでいく。

カイムは城門を突破したものの深手を負った。生き残るため、ドラゴンに契約をもちかける。契約をすれば身体の機能をひとつ失うことになるが、命は助かる。両親を殺したドラゴンの同族の者に頭を下げるのは忍びないが、背に腹はかえられなかった。

ドラゴンもまた帝国軍に捕らえられ、不本意な傷を負わされていた。このままでは命が危ういのはカイムと同じである。

カイム　　もう一度だけ聞く。
　　　　　おまえに生きる意志はあるのか？　ないのか！？

ドラゴンは人間に服従することを良しとしない誇り高き種族ではあったが、「生きる」ため、カイムの誘いに甘んずる。

こうして、ドラゴンとカイムは互いの心臓を交換し、契約した。その命は一蓮托生となった。

交錯する想い

契約によって声を失いつつも、カイムはフリアエを助け、その場にかけつけた幼なじみイウヴァルトと共に安全な土地、エルフの里を目指す。

ところが、エルフの里は帝国軍によって滅ぼされた後だった。永世中立を認められているはずの里を襲うなど、常識では考えられない。カイムは常軌を逸した帝国軍の行動に何かキナ臭い秘密があると睨み、フリアエをイウヴァルトにまかせ調査を進める。フリアエ達は一足早く神官長ヴェルドレの元へ向かった。ヴェルドレもまた契約者である。

ドラゴン　　『……天使を語ってはならない。
　　　　　　天使を描いてはならない。
　　　　　　天使を書いてはならない。
　　　　　　天使を彫ってはならない。
　　　　　　天使を歌ってはならない。
　　　　　　天使の名を呼んではならない。
　　　　　　……なんだ、これは！？』

帝国軍の死体のそばに血文字で書かれた謎の詩。帝国軍の急な強大化の影にあるモノはどうやら『天使の教会』であるらしい。　しかし、『天使の教会』は詩にある通り、教団がある場所はどこなのか？　主催者は誰であるのか？　どんな宗旨を持つのか？　いっさいが謎に包まれた存在だった。

謎の教団の影が背後に見える帝国軍は、領土拡大や政権争いよりももっと厄介な目的を持って剣をふるっているのではないか？　カイムは嫌な予感がした。その予感に追い打ちをかけるように、ドラゴンが叫ぶ。『ヴェルドレの“声”が……途切れたぞ！』

叫び

フリアエとは砂漠で無事再会出来たが、彼女をかばったイウヴァルトとヴェルドレは帝国軍に捕まってしまっていた。
カイムとドラゴンは捕虜収容所を襲撃し、ヴェルドレを無事奪還する。ヴェルドレの口から帝国軍の目的が明らかにされた。

ヴェルドレ	……帝国軍は国への介入に飽きたらず、 もっと根本的なところから創造しなおそうと しているようです。
ドラゴン	『……世界か？』
ヴェルドレ	はい……封印がすべて解けた時に 出現すると言われている“再生の卵”…… 彼らの狙いはそれでしょう。 だから最終封印である女神の命まで……

一方その頃、何者かによってイウヴァルトに“洗脳”が行われていた。
幼い頃からフリアエへ過剰な愛をささげ、それゆえにフリアエの兄カイムに対する異常なコンプレックスを抱き続けてきたイウヴァルトの弱き心は、たやすく落ちてしまう。
イウヴァルトはカイムと同等の力を手に入れるため、カイムの両親を殺したブラックドラゴンと契約する。そして“敵”としてカイムと剣を交え、フリアエをさらっていくのだった。

帝国の脅威

帝国軍は次々と世界の封印を破壊していく。最終封印であるフリアエもイウヴァルトの手に渡ったままだ。カイム達は遅れをとりつつも着実に追いつめていき、世界のどこかに『天使の教会』の要塞が存在することを突き止める。
旅の途中で、契約者の仲間も集まった。悔恨と絶望の隠者 レオナール、狂気のエルフ アリオーシュ、無垢なる悲劇を背負う孤児 セエレ、それぞれ平坦ならぬ人生において地獄を見た者達ばかりだ。

カイム達一行は要塞の手がかりを求めて帝国領土にたどり着いた。そこでは、連合軍、帝国軍による大規模な肉弾戦が今、始まろうとしていた。
雄叫びと共に剣がうなる。カイムもまた血塗られた怒りの虜となる。
そんな人間の戦いを嘲笑うかのように、天から降り注ぐモノがあった。未知の攻撃は爆弾以上の破壊力を持ち、人間達を圧倒した。両軍の勝敗など意味がなくなる。阿鼻叫喚の巷と化した地上からはばたき、カイムとドラゴンは天を目指した。

→ここから、物語はＤ路へ分岐します。

＿＿＿ 定め

ぶあつい雲を突き抜けると、空中要塞があった。ついに、カイム達は『天使の教会』の尻尾をつかまえたのだ。要塞の中に、フリアエを連れたイウヴァルトもいた。

イウヴァルトとの一騎打ちに勝ち、カイムは空中要塞へ潜入する。そこで、『天使の教団』の司教であり、すべての破壊を引き起こした元凶、マナを見つける。しかし時すでに遅し。フリアエの血は流れた後だった。すなわち封印は解かれ、世界は崩壊へと向かっていた。

カイムはただひとりの肉親、妹の死に錯乱する。ドラゴンの“声”が響いた。

ドラゴン　　『カーイム！　しっかりしろ！！
　次の手を打たねば世界が滅びるのだぞ？
　個人の無念はひとまずこらえよ』

→ここから、物語はB路へ分岐します。

＿＿＿ 閉じた魂

マナが一足早く逃げ去る。行き先は、廃墟と化した帝都であるらしい。そこには再生の卵が続々と発生しており、あらゆる種族は生存本能に突き動かされ、“ノアの箱船”に乗る権利を巡って争っていた。

エンシェントドラゴンと戦いながら、ドラゴンは人間のカイムを認めている自分に気付く。カイムにとっても同じことが言えた。彼らは戦いを重ねるうちに、契約を超えた“パートナー”となっていたのだ。

帝都の祭壇で、最後の敵マナを倒す。我に返ったマナは、自らの罪の大きさに怯え、殺されることを願うが、カイム達は聞き入れない。生きて、無数の人々の憎しみにさらされ続けるという形で、彼女は罪を償っていかねばならないと考えたからだ。

ヴェルドレは死んでしまったフリアエに代わり、新たな女神を立てることで世界の崩壊を止めようとする。ドラゴンが進み出た。人間のために、カイムのために、封印となることを決意したのだ。

それは、ドラゴンとカイムの永遠の別れを意味していた。

ドラゴン　　『おぬしに……覚えておいて
……もらいたいこと…・・が……ある。』
『アンヘル……それが我の名だ。』

ドラゴンは去り、人間達が残される。

マナの姿を借りて、世界ごと人間を滅ぼそうとしていた本当の敵は、“神”ではなかったろうか？　人間はそこまで憎まれているのか？　答えは闇の中だ。

ヴェルドレ　　神よ……
それでもあなたは、我々に生きろとおっしゃるか？

→A路　エンディング

■B路

→（A路　定め）まで省略

＿＿＿＿　悪魔の翼

カイム達が去った後、イウヴァルトが歩み出る。見てはならないものを見て、彼の目が開かれる。フリアエが死んだ？　皮肉なことに、そのショックがイウヴァルトを洗脳から解き放った。

自分は封印を解く運搬道具として利用されただけ。ならば、自分がフリアエを殺したようなものだ……真実を知ったイウヴァルトの心は、悔恨と怒りと自尊心の崩壊によって狂ってしまった。

もはや封印としての機能を終え、誰も見向きしないフリアエの死体を抱くと、イウヴァルトは口づけをした。

イウヴァルト　　フリアエ……。俺の許嫁……。
やっと俺だけのものに。
もう誰にも……渡さない！！

イウヴァルトは女神復活という奇跡を求めてブラックドラゴンを駆り、再生の卵を目指す。

→ここから、物語はＣ路へ分岐します。

＿＿＿＿　邂逅

そんな彼を正気に返らせようと、カイムとドラゴンが追ってきた。彼らの説得も愛の狂気に捕らわれたイウヴァルトにはきかない。

カイム達から逃れ、イウヴァルトはついに再生の卵にフリアエを入れてやる。これできっと蘇ってくれる！

果たして、フリアエはたしかに蘇った。殺人生物として……。再生の卵は人間を生かすものではなく、殺すための“奇跡”だったのだ。

イウヴァルトは彼女の最初の犠牲者となる。希望を打ち砕かれて死んでいきながらも、彼の瞳は最期までフリアエを映していた。

カイムには実の妹の姿をした“敵”と戦うという、むごい任務が残された。心を凍らせて、彼は討つ。

しかし、ひとり討ったところで世界の崩壊と彼の悲劇は止まらない。振り仰げば、無数の女神が空を埋め尽くしているのだった。人間を殺すために。カイムを殺すために。

ドラゴンのつぶやきが預言のようにカイムに響く。

ドラゴン　　『……人間は決して赦されないのだ。』

→Ｂ路　エンディング

■C路

→（B路　悪魔の翼）まで省略

＿＿＿＿　夜空の下で

イウヴァルトは死んだフリアエの復活を目指し、帝都までやって来た。カイム達に追いつかれると、幼子のように怯える。結局、彼は愛の欲しいわがままな子供のままだった。

イウヴァルトはフリアエの安らかな眠りすら奪おうとしている。カイムはたまらず、ブラックドラゴン共々イウヴァルトを倒した。

最期の瞬間、イウヴァルトはフリアエのそばで逝きたいと懇願する。カイムは許した。イウヴァルトは安らかな微笑みを残して死んだ。

イウヴァルト　　あぁ……しあわせだ……。

この間にマナが帝都祭壇に逃げ込んだことを、ドラゴンが察知する。カイム達が到着するより早く、再生の卵の前でマナはドラゴンの群れによって虐殺されていた。

惨状を見たドラゴンはカイムに契約解消を言い渡す。卵を前にした時、ドラゴンはカイムの敵にならざるをえない。なぜなら、ドラゴンという種族は人間を淘汰する摂理のもとに生まれた生物であったから……。本能が戦いを選んだのだ。

こうして、哀しい生存競争が始まった。ドラゴンの心が自分の負けることを願う。

カイムはドラゴンを倒す。つらい別れになった。しかし、カイムに膝をつく余裕はない。祭壇の外ではドラゴンの群れが新たな獲物を求めて待機している。

カイムは再生の卵を睨む。こんな卵があるから自分はドラゴンと別れることになったのだ、と思う。そして、剣を抜くと斬りつけた。何者かが用意した得体の知れぬモノに運をまかせるのはやめ、自らの力で生き延びる意志を見せたのだ。それはドラゴンとの約束でもあった。

カイムは今、たったひとりで生きる戦いを始めようとしている。

→C路　エンディング

■D路

→（Ａ路　帝国の脅威）まで省略

＿＿＿＿　夢と現実

一旦は、上空を目指したカイムたちだったが、途中でレオナールからの連絡が入る。フリアエが海上要塞にいるらしい。カイム達は目的地を空から海へと変更した。

海上要塞に張られた結界を壊し、侵入する。敵を蹴散らしつつ進んだが一足遅く、フリアエは空中要塞に転移した後だった。

カイムはフリアエを追って辿り着いた空中要塞で、『天使の教会』の司教マナを見つける。すべての元凶を断ち切るべく、彼女を追いつめる。

マナは神に愛された自分に酔いしれ、狂気は去る気配がない。双子の兄であるセエレの言葉も聞かなかった。

セエレ	ごめんね、ごめんね、許して、マナ……。 ……助けて……ゴーレム……

セエレの契約パートナーであるゴーレムは、セエレが暴力をふるわれたことに怒り、マナを殺す。

すると、世界が激しく振動をはじめた。封印が解かれなかったにも関わらず、世界をつなぎとめていたタガが外れてしまったようだ。“おおいなる時間”が乱れている。

マナに“神”が降りていたのは本当のことなのだろうか？　神を殺した後、世界はどうなるのか？　人間達は怯える。

その時、世界に“天使”が現れた。しかし、彼らは救世主ではない。隕石のように重く、破壊力を持って降り注ぎ、地上を壊した。

常識を超えた戦いが始まる。人間達に勝ち目はなかった。アリオーシュ、レオナール、仲間も次々と死んでいく。明らかに、天使達は人間が対処出来ない能力で人間を食いつぶそうとしていた。

ヴェルドレ	狂ってる……狂ってるのだ、何もかも。 おぉ……ここは地獄か？
レオナール	現実ですよ。

→ここから、物語はＥ路へ分岐します。

＿＿＿＿　真実の行方

万策尽きた時、セエレが進み出た。彼は契約によって自分に流れる“時間”をなくした（不老）人間だ。セエレは“天使”が“おおいなる時間”を狂わせている張本人だと語り、時間を持たない自分こそが唯一の対抗手段であると主張した。明らかに危険な提案だが、もはや他に頼る手段もない。

ドラゴンはカイムとセエレを乗せて、天使の元へ向かう。

セエレの読みは当たり、天使はセエレと融合し消滅する。“おおいなる時間”の暴走が止まる。

セエレ	これで……許してくれる？　マナ……。

こうして、愛してくれる者をすべて失った孤児は数え切れぬ地獄の中、最期まで清らかな心のまま救世主となった。

→Ｄ路　エンディング

■E路

→（D路　夢と現実）まで省略

＿＿＿　回帰

カイムとドラゴンは、ブラックホール状になった天使の腹へ入ることを決意する。常識を超えた戦いにマニュアルはない。懐に飛び込むしかなかった。

ドラゴン　　　『そうさな……虎の子を見つけたくば、
　　　　　　　　虎の巣に入るしかなかろう』

彼らは最後まで希望を捨てつつも、運を天にまかせた。

そして、カイムとドラゴンは見慣れない世界へたどり着く。ここが神の国なのか？
彼らはわからないまま、目の前の天使を倒す。

勝利に喜び、そして世界を救えたことに安堵していると、不意に激しい衝撃と光が襲う。次にあるのは闇。カイムもドラゴンも二度と目を開くことはないだろう。

戦闘機　　　「こちらスカーフェイス。目標に命中。
　　　　　　　正体は依然不明。落下した模様。」

平和な昼下がり、東京タワーに串刺しになるドラゴンを人々は映画でも観ているような感覚で眺めていた。
ここが神の国なのか？　カイムの問いには誰も答えられないままだ。

→E路　エンディング

■用語解説

連合軍	帝国軍（天使の教会）に対抗するためのヨーロッパ諸国連合。 主人公のカイムもここに所属する。
帝国軍	E.U.以外の勢力。 『天使の教会』という謎の教団がつき、モンスターと契約してからは猛威を振るうようになった。
女神	“おおいなる時間”（時間と空間と次元）を現世界の正しい時間につなぎとめているクサビ（封印）。 あらゆる時代にただひとりのみ、存在する。 前の女神が死んだ時にオシルシが現れた者が有無を言わせず次の女神と認定される。 一度認定されてしまったら、一生市井の生活には戻れない。 ふだんの生活は幽閉状態。世間とは隔絶されて過ごす。 民間人とは交わらないため、神官長（ヴェルドレ）が代表でこまごまとした世話をしている。 ただし、戦乱の世となってからは流浪の旅、民間人との接触を余技なくされている。
神官長	民間人と触れ合うことを禁じられた女神が唯一、接触できる相手。
封印	世界には３カ所の封印場所（聖地）と１人の最終封印が存在する。 封印場所は森・海・砂漠の神殿。最終封印は女神である。 最終封印までもがすべて解かれてしまうと、世界は滅亡すると言われている。
ドラゴン	神が作り出した「掃除機」。生存競争のシード選手。 優良種を生き延びさせてゆく神の計画の番人という役割。 ゆえに誇り高く、「神の失敗作」人間に関しては冷たいのが基本。 ドラゴンが生存競争で一番強い生き物であることを、モンスター達は本能的に知っている。 むろん、ドラゴン種族自身も知っている。 ただ人間族のみ、愚かにも「自分達が一番強くなりうる」という幻想のもとに 様々な技術進化を遂げてきた。 カイムとつながったドラゴンは、生存への最終局面において本能と理性の戦いを強いられる。
契約	人間の負の感情が、人間以外の生物を呼び寄せる。 彼らの（またはどちらか一方の）利害が満たされた時、 心臓を交換し、生死を共にする運命共同体となる。 人間は契約の代償として身体の器官か機能をひとつ失う。
契約者	他の誰よりも「生き残りたい！」という生存本能の強い人間は「契約」という生存手段を とることが多い。つまり、エゴの強い人間こそが「契約者」になる。 見苦しいほど生に執着している者こそが「選ばれし者」なのだ。 フェアリー等、人間以外の契約者は、そんな人間の負の感情に惹きつけられて行動する。
神	エゴだけ強い不穏な失敗作「人間」を抹殺したがっている。 ドラゴンをはじめとするモンスター全般の本能には、そんな神の意志が反映されている。 唯一、人間だけが神の操作できない突然変異的生物。

卵	封印が解かれると、世界に発生する「世界の破滅から人間を守る装置」……神話に登場する“再生の卵”はそう描かれている。 実際は、神が作り出した「人間抹殺装置」以外の何者でもない。
天使の教会	教団の場所。主催者。教義。いっさいが秘められた謎の教団。
天使	全てが不明
赤い眼	天使の教会に洗脳された人間やモンスターは眼が赤くなる。
おおいなる時間	しかるべき場所におさまった「時間」「空間」「次元」のこと。 世界がきちんと動くのはおおいなる時間があるからだ。 女神やセエレはこれをつなぎとめ、天使の教会は壊そうとし、天使は無に帰す。

■人物



カイム

性別：　男性
年齢：　２４歳
契約モンスター：　レッドドラゴン
失われたもの：　言葉
紋章の位置：　舌

Ｅ．Ｕ.小国の元王子。帝国軍と彼らが持っていたドラゴン（ブラック）に両親を殺され、国は崩壊。
その後、妹に女神の“おしるし”が出て、家族も崩壊。
復讐の鬼。誰かのための復讐ではなく、おもに自分のため、自分の怒りを鎮めるため、殺しまくる。
しかし、あくまで大義名分として「両親の仇」「妹の運命への憐れみ」をあげている。



イウヴァルト

性別：　男性
年齢：　２０歳
契約モンスター：　ブラックドラゴン
失われたもの：　歌
紋章の位置：　首

カイムの小国に出入りしていた貴族の息子。カイム、フリアエとは幼なじみ。
カイムにはいつもコンプレックスを感じて育ってきている。
ハープをかきならし歌う美声の持ち主。
何事も純粋にまっすぐ受け止めるが、心が弱く、支えきれない。
すぐにおたつき、ダメになる。
ダメになった時、何かにすがらずには生きておれない。
一番の頼りは、許嫁であったフリアエ。
彼女が女神となり、許嫁としての関係が崩壊した今も固執している。ゆがんだ愛。



フリアエ

性別：　女性
年齢：　１９歳

兄と許嫁に大切にされてきたごく普通の少女。１４歳の時に女神の
“おしるし”が出てから人生が変わった。
己の運命、己をつらい目に合わせる世界を呪い続けるが、
女神という職の重圧がその気持ちに蓋をする。
自由のきかない生活は、彼女にすべてをあきらめさせた。
生への執着がないので、世界を救おうという気持ちもない。
ただ淡々と女神のノルマを果たすだけ。
兄への思慕や自分の醜い気持ちを”ないもの”として生きている。



マナ

性別：　女性
年齢：　6歳

実母に虐待を受けて育った。双子の兄であるセエレのみ可愛がる母親を
それでも愛している。セエレのことは憎んでいる。
愛に飢えた彼女は神にすがる（瀕死の瞬間、神の姿を見たのかもしれない）。
子供らしい純真さで、マナは神の愛を勝ち得れば、母の愛も手に入ると信じこんだ。
以降、恐怖のカリスマ司教として盲目的に「天使の教会」を突き進める。
どんなにひどい殺戮も「わたしは神に愛されてる」と信じて実行。
言うなれば、母の愛を得たいいじましい子供心を神に利用されたと言える。



ヴェルドレ

性別：　男性
年齢：　７２歳
契約モンスター：　石化したドラゴン
失われたもの：　毛
紋章の位置：　頭部

女神と直接話すことが出来る唯一の職、神官長をつとめてきた。
軍隊からは離れたところにいる実力者。
普段は「きれい事」ばかりを並べ立てる聖職者。
しかし、ギリギリの状態になると、自分の保身のみに走る利己主義な面が浮き彫りになる。



セエレ

性別：　男性
年齢：　６歳
契約モンスター：　ゴーレム
失われたもの：　時間
紋章の位置：　全身

母から偏愛されてきた子供。それを心地良く享受し、
マナを思いやれなかった自分を罰する気持ちが強い。
どんなに理不尽な暴力にさらされてもじっと耐えるのは、そのせいか？
「いい子」の行動しかしないが、その意識の底に「かわいそうな自分」を確認して、
罪の意識から逃れようとしているところが透けて見える。
それでも、基本的にまだ子供であり、契約相手のゴーレムを
「友達」と言い切る無邪気な面を持ち合わせている。



レオナール

性別：　男性
年齢：　３２歳
契約モンスター：　フェアリー
失われたもの：　視力
紋章の位置：　眼球

礼儀正しく、戦いを避けるまっとうな神経の持ち主。
そのまっとうさゆえ、己の性癖については人一倍悩みが多い。
このゆらぎに、フェアリーがつけ込んでいる。
セエレへの愛情は深く、敵はもちろんアリオーシュからも守りぬこうとする。



アリオーシュ

性別：　女性
年齢：　２４歳
契約モンスター：　ウンディーネ、サラマンダー
失われたもの：　子宮
紋章の位置：　下腹部

エルフの主婦だったが、帝国軍（天使の教会）に亭主と子供を惨殺され、精神を病む。
以後、子供達ばかりを標的に数々の惨殺事件を引き起こす。
精神が完璧に崩壊しており、殺戮に良心は痛まない。
カイムのように殺人の理由に大義名分を置くこともなく純粋に楽しみを見出している危険人物。
目下のところ、狙いはセエレに向いている。